

# 活 動 報 告

日本語研修コース

深見兼孝

[修了者]

第40期生(2005年4月～2005年9月)[14名]

氏名	呼び名	国籍	専攻	大学
Varikkattu Karottu, Kesavadev	ケサヴァデヴ	インド	造船学	広島大学
Ardyono Priyadi	アルディオノ	インドネシア	電気工学	広島大学
Agus Syarip Hidayat	アグス	インドネシア	経済学	広島大学
Yapa, Yapa Pathirannahalage Roshan Dharshana	ロシヤン	スリランカ	統計学	広島大学
Tan, Liza Castro	リザ	フィリピン	法学	広島大学
Do Tien Thinh	ティエンティン	ベトナム	建築工学	広島大学
Soulignavong Latsanyphone	ラッサニポン	ラオス	教育学	広島大学
Sirois Julie	ジュリ	カナダ	国際関係	広島大学
Eghbal, Mehdi	メヘディ	イラン	電気工学	広島大学
Kahraman, Baris	バルシュ	トルコ	日本語学	広島大学
Kanyinji Francisco	カニンジ	ザンビア	獣医学	広島大学
Ilemobayo Ifedayo Oguntimehin	イレモバイヨ	ナイジェリア	環境化学	広島大学
Chang Fon, Adriana Silvia	アドリアナ	ペルー	デザイン工学	広島市立大学
Nham Phong Tuan	ファントゥアン	ベトナム	経営管理	広島大学

[修了者]

第41期生(2005年10月～2006年3月[16名])

氏名	呼び名	国籍	専攻	大学
Lee Hoo Eng	リー	マレーシア	商学	広島大学
Patino Jose Alejandro	アレハンドロ	ベネズエラ	国際経営	広島大学
Alam Khandker Masudul	アラム	バングラディッシュ	経済学	広島大学
Nukaew Monchanok	モンチャノック	タイ	英語科教育	広島大学
Yu Qing Ping	ユイ	中国	教育評価	広島大学
Mao Li Xing	モウ	中国	教育行政学	広島大学
Mangabat, Marites Dipasupil	マリテス	フィリピン	教材開発(物理)	広島大学
Khin Ohnmar Zaw	キン	ミャンマー	社会科(地理)	広島大学
Lopes Salcedo Luis Enrique	ルイス	メキシコ	算数教育	広島大学
Zalynaite Rasa	ラサ	リトアニア	英語教授法	広島大学
Fazal Rabi	ラビ	アフガニスタン	教育方法	広島大学
Yuan Yuan	ユアンユアン	中国	日本の教育管理	広島大学
Fahmy Mohamed	モハメド	エジプト	生物資源開発学	広島大学
曹志生	ソウ	中国	分子生命機能科学	広島大学
Ahmad Mohammad Abdel Mageed Mohammad	アーメッド	エジプト	生物資源開発学	広島大学
Leonard Omondi Opel	オペル	ケニア	理科教育	広島大学

第40期(2005年4月～2005年9月)予定表

期日	行事／試験等	見学(総合演習)	備考
4/8	4/8(金) 9:30オリエンテーション(K308)		4/9(土)東広島オリエンテーションバスツアー
4/11-4/15	4/11(月) 11:00 開講式(教育学部第3・4会議室)		4/11(月) 11:30ホストファミリー案内(K308)
4/18-4/22		4/22(金) 広島市	4/22(金) 17:30ホストファミリー対面式
4/25-4/29			4/29(金)公休日
5/2-5/6			5/3(火)～5/5(木)公休日
5/9-5/13			
5/16-5/20			
5/23-5/27		5/27(金) 宮島	
5/30-6/3			
6/6-6/10	6/9(木)中間試験 専門用語解説開始		
6/13-6/17			
6/20-6/24			
6/27-7/1			
7/4-7/8		7/8(金) マツダ	
7/11-7/15			
7/18-7/22			7/18(月)公休日
7/25-7/29			
8/1-8/31	夏休み		
9/1-9/2	9/1(木)期末試験 9/2(金)特別講義		
9/5-9/7	9/5(月) - 9/6(火)特別講義 9/7(水) 13:30修了式(教育学部第3・4会議室) 14:00成果発表会(")		



第41期(2005年10月～2006年3月)予定表

期日	行事／試験等	見学(総合演習)	備考
10/11-10/14	10/11(火) 11:00オリエンテーション(K308) 10/12(水) 11:00 開講式(教育学部第3・4会議室)		10/12(水) 11:30ホストファミリー案内 (K308)
10/17-10/21		10/21(金) 広島市	10/21(金) 17:00ホストファミリー対面式
10/24-10/28			
10/31-11/4			11/3(木)公休日
11/7-11/11	11/10(木)「専門用語解説」開始 (～1/26)		11/12(土) 10:00国際交流会館防災訓練
11/14-11/18			
11/21-11/25		11/25(金) 宮島	11/23(水)公休日
11/28-12/2			
12/5-12/9	12/7(水)中間試験		
12/12-12/16			
12/19-12/23			12/23(金)公休日
12/26-1/6	冬休み		
1/9-1/13		1/14(土)・15(日) 国際交流キャンプ (江田島)	1/9(月)公休日
1/16-1/20		1/20(金) マツダ	
1/23-1/27			
1/30-2/3			
2/6-2/10			2/11(土)公休日
2/13-2/17	2/15(水)期末試験		
2/20-2/24	特別講義		
2/27-3/1	2/27(月)・28(火)特別講義 3/1(水) 13:30修了式(教育学部第3・4会議室) 14:00成果発表会(”)		

## 講師一覧

第40期(2005年4月～2005年9月)

専任 浮田三郎 玉岡賀津雄 多和田眞一郎 中川正弘 深見兼孝

非常勤 伊崎泰枝 石井敬子 今石正人 後藤美知子 佐藤道雄

[専門用語解説]

金原達夫(国際協力研究科) 熊谷元(国際協力研究科) 小松正昭(国際協力研究科)

酒井弘(教育学研究科) 佐久川弘(生物圏科学研究科) 菅野俊介(工学研究科)

西谷元(社会科学研究科) 濱田邦裕(工学研究科) 原田耕一(総合科学部)

平川幸子(国際協力研究科) 松尾雅嗣(国際協力研究科) 森元惇夫(工学研究科)

餘利野直人(工学研究科)

第41期(2005年10月～2006年3月)

専任 浮田三郎 玉岡賀津雄 多和田眞一郎 中川正弘 深見兼孝

非常勤 伊崎泰枝 石井敬子 今石正人 後藤美知子 佐藤道雄

[専門用語解説]

植田敦三(教育学研究科) 木梨陽康(先端物質科学研究科) 金原達夫(国際協力研究科)

古賀一博(教育学研究科) 小松正昭(国際協力研究科) 曾余田浩史(教育学研究科)

蔦岡孝則(教育学研究科) 中野和光(教育学研究科) 二宮皓(教育学研究科)

深澤清治(教育学研究科) 古澤修一(生物圏科学研究科) 前原俊信(教育学研究科)

柳瀬陽介(教育学研究科) 由井義通(教育学研究科) 吉村幸則(生物圏科学研究科)

日本語教育部門：日本語・日本事情  
(2005年4月～2006年3月)

田 村 泰 男

1. 授業科目一覧

・東広島キャンパス

授 業 科 目	開 設 単位数	学期別週授業時数		備 考
		前 期	後 期	
総合日本語初級ⅠA	1・1	2	2	広島大学外国人留 学生のための授業で ある。
総合日本語初級ⅠB	1・1	2	2	
総合日本語初級ⅠC	1・1	2	2	
総合日本語初級ⅡA	1・1	2	2	
総合日本語初級ⅡB	1・1	2	2	
総合日本語初級ⅡC	1・1	2	2	
総合日本語中級ⅠA	1	2		
総合日本語中級ⅠB	1	2		
総合日本語中級ⅠC	1	2		
総合日本語中級ⅠD	1		2	
総合日本語中級ⅠE	1		2	
総合日本語中級ⅠF	1		2	
総合日本語中級ⅡA	1	2		
総合日本語中級ⅡB	1	2		
総合日本語中級ⅡC	1	2		
総合日本語中級ⅡD	1		2	
総合日本語中級ⅡE	1		2	
総合日本語中級ⅡF	1		2	

日本語聴解特別演習 A	1	2	
日本語聴解特別演習 B	1		2
日本語分析特別演習 A	1	2	
日本語分析特別演習 B	1		2
日本語表現特別演習 A	1	2	
日本語表現特別演習 B	1		2
日本語古文特別演習 B	1	2	
日本語古文特別演習 B	1		2
日本語語彙特別演習 A	1	2	
日本語語彙特別演習 B	1		2
映像日本語特別演習 A	1	2	
映像日本語特別演習 B	1		2
日本の社会・文化 A	1	2	
日本の社会・文化 B	1		2
日本の思想・哲学 A	1	2	
日本の思想・哲学 B	1		2
日本の地域・文化 A	1	2	
日本の地域・文化 B	1		2
日本語・日本文化特別研究 I A	4		4
日本語・日本文化特別研究 I B	4		4
日本語・日本文化特別研究 I C	4		4
日本語・日本文化特別研究 II A	4	4	
日本語・日本文化特別研究 II B	4	4	
日本語・日本文化特別研究 II C	4	4	

・霞キャンパス

授 業 科 目	開 設 単位数	学期別週授業時数		備 考
		前 期	後 期	
総合日本語初級ⅠA	1・1	2	2	広島大学外国人留 学生のための授業で ある。
総合日本語初級ⅠB	1・1	2	2	
総合日本語初級ⅡA	1・1	2	2	

## 2. 授業内容

(東広島キャンパス)

### ・レベル1

授業科目	総合日本語初級ⅠA・ⅠB・ⅠC
担当教官	石原 淳也・深見 兼孝・堀田 泰司・山中 康子
目 標	かな及び基本的な漢字の読み方・書き方、初歩的な文法を習得させる。
内 容	1.文字の導入            2.基本文型の導入 3.音読練習            4.口頭及び筆記による応用練習
テキスト	「みんなの日本語初級Ⅰ 本冊」(スリーエーネットワーク)
成績評価の方法	出席・試験・宿題

### ・レベル2

授業科目	総合日本語初級ⅡA・ⅡB・ⅡC
担当教官	田村 泰男・中川 正弘・下村 真理子
目 標	初級後半レベルの基礎的な語彙・文型・表現を学習し、併せて種々の場面に応じた実用的な日本語表現能力を習得させる。
内 容	第1週－第5週 依頼表現、可能表現、継続・習慣の表現、理由の表現、意志・予定の表現、完了表現、自動詞／他動詞、推量表現、忠告の表現、命令・禁止表現、テスト(1) 第6週－第10週 時間表現、付帯状況の表現、条件表現、目的・目標の表現、状態変化の表現、受身表現、形式名詞、理由・原因の表現、疑問詞疑問文、試行の表現、テスト(2) 第11週－第15週 授受表現、目的の表現、様態の表現、移動の表現、難易表現、伝聞表現、使役表現、敬語、テスト(3)
テキスト	「みんなの日本語初級Ⅱ 本冊」(スリーエーネットワーク)
成績評価の方法	出席・試験・宿題

・レベル3

授業科目	総合日本語中級 I A・I B
担当教官	浮田 三郎・渡部 浩見
目 標	中級レベルの長文を読み、内容を理解する能力を身に付ける。今までに学んだ基本的な表現を使って、日本語で議論をしたり自分の意見を表現できるようにする。
内 容	扱う内容は以下の通り。 第1週～第7週 グラフの読み方、旅行、手紙、手紙の書き方、買い物、テスト(1) 第8週～第15週 祭り、プレゼント、アンケート、アンケートの方法、テスト(2)
テキスト	「トピックによる日本語総合演習・中級前期」 (スリーエーネットワーク)
成績評価の方法	出席・試験・宿題

授業科目	総合日本語中級 I C
担当教官	坂田 光美
目 標	さまざまな形式の文章表現を耳から理解できるようになる。
内 容	各課ひとつのトピックスについての文章をテープを通して聞き、それについての質問に答えていく。文章は、各課ごとに次第に長くなっていくが、練習によって、理解した事柄を口頭でも、筆記でも答えられるようパターン学習する。
テキスト	「毎日の聞き取り 50日 vol.2」 (凡人社)
成績評価の方法	出席状況と平常点、および期末試験による総合評価。

授業科目	総合日本語中級 I D・I E
担当教官	浮田 三郎・渡部 浩見
目 標	中級レベルの長い文章を読み、それが何を伝えようとしたものであるかを確実に読みとる読解力を身に付け、さらにその内容を的確に言語表現できる能力を養うことを目標とする。
内 容	その課に出てくる文型、語彙等について解説を加えた後、長文を読み内容を理解したうえで、長文の内容についての質問に答える。 適宜、トピックに関連した日本文化についての解説を加える。 第1週～第7週 新宿、工場見学、方言、思い出の人形、日本間、青と緑、テスト 第8週～第15週 マンガ、志のままに、すし、河童、寄席、睡眠、テスト
テキスト	「日本語2ndステップ」(白帝社)
成績評価の方法	出席・試験・宿題

授業科目	総合日本語中級 I F
担当教官	下村 真理子
目 標	さまざまな形式の文章表現を耳から理解できるようになる。
内 容	毎回ひとつのトピックスについての平易な文章をテープを通して聞き、それについての質問に答えていく。文章は、各課ごとに次第に長くなっていくが、練習によって、理解した事柄を口頭でも、筆記でも答えられるようパターン学習する。
テキスト	「毎日の聞き取り 50日 vol.1」(凡人社)
成績評価の方法	出席状況と平常点、および期末試験による総合評価。



・レベル4

授業科目	総合日本語中級ⅡA・ⅡB
担当教官	田村 泰男・坂田 光美
目 標	中級レベルの文法・語彙・表現の定着を図るとともに長文読解能力を養成する。
内 容	トピックに基づいて書かれた日本語中級学習者用の読解教材を読み進みながら、中級レベルの文型・語彙・表現を学習する。 授業では、特に次の語彙・表現の解説を行う。 ～ざるをえない、～ようになる、できるだけ～、～おかげで、 ～のように、～よりもむしろ～のほうが、～ことだ、～のだ、 ～とはなしに～していると、かえって～、せめて～たら、 ～するやいなや、お／ご～、たとえ～ても、～（と）している、 ～がち、～た／だ上で、～わけにはいかない、～うちに、 ～た途端、～かねない、～とのことである、～にわたって、 ～とともに、まるで～ようだ、～さ／～み／～め
テキスト	「日本語中級読解新版」(アルク)
成績評価の方法	出席・試験・宿題

授業科目	総合日本語中級ⅡC
担当教官	山中 康子
目 標	ニュースの聞き取りを通じて、ニュースに特有な表現・語彙に慣れ、必要な情報を選択する能力を養うとともに、日本社会に対する知識を増やすことを目的とする。
内 容	(前半) 短文聴解 日常的な話題の聴解 1. 自然 2. 事故 3. 生活 4. 社会 (後半) 長文聴解総合的な話題の聴解 1. 社会経済 2. 政治 3. 医学 4. スポーツ
テキスト	プリントを配布する。
成績評価の方法	中間試験、期末試験、及び出席状況を考慮して評価する。

授業科目	総合日本語中級ⅡD・ⅡE
担当教官	田村 泰男・坂田 光美
目 標	中級レベルの文法・語彙・表現の定着を図るとともに長文読解能力を養成する。
内 容	トピックに基づいて書かれた日本語中級学習者用の読解教材を読み進みながら、中級レベルの文型・語彙・表現を学習し、部分作文によって新出項目の定着を図る。授業では、特に次の語彙・表現の解説を行う。ながら、まい、わけだ、でも、ほど、なら、ても、てくる、てしまう、ながら、よう、がる、ことにする／なる、～とか～とか、てたまらない、ばかり、ものだ、てみる、中、～し～し、かもしれない、つもり、くらい、なければならない、まま、～から～にかけて、ものの、～やら～やら、につれて、～ば～ほど、として、によって、ところ、にとって、はず、さえ、うち
テキスト	「テーマ別中級から学ぶ日本語」(研究社)
成績評価の方法	出席・試験・宿題

授業科目	総合日本語中級ⅡF
担当教官	山中 康子
目 標	身近なトピックにより、日本に対する理解を深めるとともに、多様な場面や状況を理解し、語彙を増やす。聞き取りだけでなく、多角的な練習により、総合的な日本語の力を伸ばす。
内 容	教材を聴く前にまず、 (1)イラストによって、教材の内容を概観する。 (2)関連語彙や、背景となる知識を導入する。 (3)教材の内容に関する短い文章を読み、クイズに答える。 教材を聴いた後 (4)タスクに答える。 (5)話題に関連した補足説明を読み、知識を深める。 (6)語彙、表現の定着を図るために、口頭練習を行う。 (7)音声言語としての日本語についての理解を深める。
テキスト	「毎日の聞き取りplus40 上」(凡人社)
成績評価の方法	試験、出席、課題

・レベル5

授業科目	日本語聴解特別演習 A
担当教官	深見 兼孝
目 標	現代日本のさまざまな問題を取り上げた時事エッセイの聴解能力を養い、併せてそれに特有の語彙・表現を学習する。
内 容	次のような段階を踏んで、内容を理解する練習を行う。 後にそれを文字化したものを読み、理解を補う。 1) キーワードの理解と聞き取り 2) 概要の把握 3) 細部の聞き取り さらに、重要語句の使い方について練習する。
テキスト	市販の中・上級用教材の一部と付属のテープ。および担当者の自主教材。
成績評価の方法	出席・試験・宿題

授業科目	日本語聴解特別演習 B
担当教官	深見 兼孝
目 標	ニュースの聴解能力を養い、併せてそれに特有の語彙・表現を学習する。
内 容	ニュースを聞き、次の段階を踏んでその内容を理解する練習を行う。また、スクリプトの完成を行うことによって、漢字、語彙、表現の使い方を学習する。 1) キーワードの理解と聞き取り 2) 概要の聞き取り 3) 細部の聞き取り 4) ディクテーション
テキスト	市販の中・上級用教材の一部と付属のテープ。および担当者の自主教材。
成績評価の方法	出席・試験・宿題

授業科目	日本語分析特別演習 A
担当教官	中川 正弘
目 標	日本語で文章を綴ることに慣れ、自分たち外国人の日本語を日本人の日本語と比較分析することで日本語の理解を深める。
内 容	自分の使う日本語をはっきりと目に見える形にするために、毎週日本語作文を提出してもらう。その作文は自分の書いた文章と書き直しが客観的に対照しやすいようにワープロ編集をして返すので、自分の日本語の問題点を考える。授業ではそれらの日本語作文から間違っている文、あるいは何か問題がある文を例に選び、時には何通りもある書き直し方や関連するさまざまな文法、表現の例と比較しながら、日本人の日本語がどのような感覚、心理、考え方を土台としているかを分析し、さまざまな文体的事象について解説していく。前期は日本語への翻訳、要約を多く扱う。
テキスト	用例のプリントを毎回配布する。
成績評価の方法	提出作文、テスト

授業科目	日本語分析特別演習 B
担当教官	中川 正弘
目 標	日本語で文章を綴ることに慣れ、自分たち外国人の日本語を日本人の日本語と比較分析することで日本語の理解を深める。
内 容	自分の使う日本語をはっきりと目に見える形にするために、毎週日本語作文を提出してもらう。その作文は自分の書いた文章と書き直しが客観的に対照しやすいようにワープロ編集をして返すので、自分の日本語の問題点を考える。授業ではそれらの日本語作文から間違っている文、あるいは何か問題がある文を例に選び、時には何通りもある書き直し方や関連するさまざまな文法、表現の例と比較しながら、日本人の日本語がどのような感覚、心理、考え方を土台としているかを分析し、さまざまな文体的事象について解説していく。後期は報告文、説明文を多く扱う。
テキスト	用例のプリントを毎回配布する。
成績評価の方法	提出作文、テスト

授業科目	日本語表現特別演習 A
担当教官	浮田 三郎
目 標	日本の諺を教材にして、時には世界各国の諺と対照比較し、日本語的な表現法、比喩表現の面白さ、日本的な考え方、日本の文化や風土などの理解を目指す。
内 容	日本の代表的な諺を、時には世界各国の諺と対照比較しながら、留学生達の意見を発表してもらい、ディスカッションする。日本語的な表現法を学習し、各々の諺が持っているテーマや特徴を、簡単なクイズ形式の設問を用いて、考えてみる機会を与える。 テーマ別には、以下に掲げる通りである。 1. 諺の表現法 2. 親と子 3. 夫婦 4. 恋愛 5. 油断と用心 6. 欲 7. 酒 8. 友 9. 秘密
テキスト	自主教材、金子武雄『日本の諺』（1982年）等
成績評価の方法	授業への出席状況とレポートによって評価する。

授業科目	日本語表現特別演習 B
担当教官	浮田 三郎
目 標	日本の諺を教材にして、時には世界各国の諺と対照比較し、日本語的な表現法、比喩表現の面白さ、日本的な考え方、日本の文化や風土などの理解を目指す。
内 容	日本の代表的な諺を、時には世界各国の諺と対照比較しながら、留学生達の意見を発表してもらい、ディスカッションする。日本語的な表現法を学習し、各々の諺が持っているテーマや特徴を、簡単なクイズ形式の設問を用いて、考えてみる機会を与える。テーマ別には、以下に掲げる通りである。 1.睡眠 2.病気 3.生死 4.季節 5.天候 6.学者 7.教育 8.義理 9.動物と比喩
テキスト	自主教材、金子武雄『日本の諺』（1982年）等
成績評価の方法	授業への出席状況とレポートによって評価する。

授業科目	日本語古文特別演習 A
担当教官	多和田 眞一郎
目 標	「日本語古文」基礎を学習する。 日本語古文読解のための基本的知識を身につける。
内 容	現代日本語との関連を考慮に入れながら、日本語古文を理解するための基礎力を養う。合わせて、研究のための資料として古文書を扱う際の心得についても考える。 (内容) 現代語と古典語、古典語文法基礎、十九世紀の日本語の例、十八世紀の日本語の例、十七世紀の日本語の例、漢文の基礎等
テキスト	自主教材（プリント配布）
成績評価の方法	出席、試験

授業科目	日本語古文特別演習 B
担当教官	多和田 眞一郎
目 標	日本語古文特別演習 A を踏まえ、「日本語古文」の応用学習をする。日本語古文読解のための応用的知識を身につける。
内 容	日本語古文読解ための応用力を養う。合わせて、研究のための資料として古文書を扱う際の問題点についても考える。 (内容) 現代語と古典語、古典語文法、十九世紀の日本語の読解、十八世紀の日本語の読解、十七世紀の日本語の読解、漢文の読解等
テキスト	自主教材（プリント配布）
成績評価の方法	出席、試験

授業科目	日本語語彙特別演習 A
担当教官	田村 泰男
目 標	常用漢字に採択されている漢字の訓読みや慣用句、擬音語・擬態語を学習することによって、より自然な日本語表現能力の習得を目指す。
内 容	1. 漢字の訓読み 2. 同訓異字 3. 各種比喩表現 4. 身体語彙を使った慣用句 5. 動植物の語彙を使った慣用句 6. 擬音語・擬態語
テキスト	プリントを配布する。
成績評価の方法	テスト、出席、宿題

授業科目	日本語語彙特別演習 B
担当教官	田村 泰男
目 標	慣用的な読み方をする漢字や類義語、接頭辞・接尾辞などを学習することによって、日本語での表現能力を高めるとともに、各種類意表現のもつ意味上の微妙な違いについての理解をはかる。
内 容	1. 特別な読み方をする漢字 2. 送り仮名によって読み方の違う漢字 3. 読み方が二通りある漢字熟語 4. 国字    5. 疊語    6. 類義語・類意表現 7. 若者語   8. 外来語   9. 接頭辞・接尾辞
テキスト	プリントを配布する。
成績評価の方法	テスト、出席、宿題

授業科目	映像日本語特別演習 A
担当教官	石原 淳也
目 標	日本映画・アニメーションを見ていく中で、1)日本語の音声に関する解説および聞き取り練習を行うこと、2)セリフに出てくる語の用法・意味の解説を通じて語彙を増やすこと、3)映画の中で出演者がなぜそのように振る舞うかということを通じて日本人の考え方を理解すること、4)映画の中で扱われるエピソードを通じて日本の文化を知ること为目标とする。
内 容	第1週-第9週 「金融腐食列島」を最後まで見た後、もう一度最初から少しずつ音声、語彙、行動等について質問、解説を行う。 第10週-第15週 「うる星やつら」を見た後、もう一度最初から少しずつ音声、語彙、行動等について質問、解説を行う。
テキスト	必要に応じプリントを配布。
成績評価の方法	出席・授業態度・レポート

授業科目	映像日本語特別演習 B
担当教官	石原 淳也
目 標	日本映画・アニメーションを見ていく中で、 1)日本語の音声に関する解説および聞き取り練習を行うこと 2)セリフに出てくる語の用法・意味の解説を通じて語彙を増やすこと 3)映画の中で出演者がなぜそのように振る舞うかということを通じて日本人の考え方を理解すること 4)映画の中で扱われるエピソードを通じて日本の文化を知ること为目标とする。
内 容	映画・アニメーションを見た後、もう一度最初から少しずつ音声、語彙、行動等について質問、解説を行う。
テキスト	必要に応じプリントを配布。
成績評価の方法	出席・授業態度・レポート



・日本事情

授業科目	日本の社会・文化A
担当教官	中矢 礼美
目 標	この授業の目標は、現代日本における特徴的な社会現象あるいは問題を取りあげ、社会学、生命倫理学、教育学の視点から読み解き、日本の社会と文化に対する認識をより深めることである。
内 容	1. 2. 若者のライフスタイルと職業意識 3. 4. 日本における「中流階級文化」 5. 6. ジェンダーフリー 7. 試験 8. 9. 生命倫理 10. 11. 12. 現代家族の様相 13. 14. 現代の教育課題と教育改革 15. 試験.
テキスト	テキストは特になし。毎回の授業テーマに沿った資料をコピーして配布する。
成績評価の方法	出席50%、試験50%

授業科目	日本の社会・文化B
担当教官	中矢 礼美
目 標	この授業の目標は、現代日本における特徴的な社会現象あるいは問題を取りあげ、社会学、教育学、人類学の視点から読み解き、日本の社会と文化に対する認識をより深めることである。
内 容	1. 2. メディアとは何か 3. 4. サブカルチャーとは何か 5. 6. 少年犯罪 7. 試験 8. 9. 男性学と女性学 10. 11. 教育問題—不登校・学級崩壊 12. 13. 14. 観光人類学—観光のしかけ・観光が作り出す文化 15. 試験
テキスト	テキストは特になし。毎回の授業テーマに沿った資料をコピーして配布する。
成績評価の方法	出席50%、試験50%

授業科目	日本の思想・哲学A
担当教官	橋本 敬司
目 標	日本の思想・哲学を歴史的あるいは現代的に考察することにより、学習者各自が日本と日本人を発見するとともに自らの思想を形成していくこと。
内 容	方丈記、平家物語などのテキストを読み、歴史的に日本人の思想・哲学を支える無常観・死生観・美意識などについて考察する。
テキスト	随時コピーを配布する。
成績評価の方法	出席とレポート

授業科目	日本の思想・哲学B
担当教官	橋本 敬司
目 標	日本の思想・哲学を歴史的あるいは現代的に考察することにより、学習者各自が日本と日本人を発見するとともに自らの思想を形成していくこと。
内 容	「日本の思想・哲学A」の学習をもとに、現代の病理として生じた事件を取り上げ、その裏に潜む日本人の思想・哲学について考察する。
テキスト	随時コピーを配布する。
成績評価の方法	出席とレポート

授業科目	日本の地域・文化A
担当教官	玉岡 賀津雄
目 標	日本の地域と文化を理解すること。
内 容	広島大学の留学生を対象に、日本の地域と文化を紹介する。地域の文化遺産、風土、人々の生活を探っていく。授業では、ビデオ、DVDなどを使って、実際の映像から日本の地域や文化を広く理解する。また、ゲストを招いて、さまざまな地域の紹介や討論を行う。地域と文化Aでは、日本の南の地域(東京から南)を中心に紹介する。
テキスト	特になし
成績評価の方法	日々の授業への出席と活発な参加・短い事例報告・短い発表。

授業科目	日本の地域・文化B
担当教官	玉岡 賀津雄
目 標	日本の地域と文化を理解すること。
内 容	地域と文化Aと引き続き、広島大学の留学生を対象に、日本の地域と文化を紹介する。地域の文化遺産、風土、人々の生活を探っていく。授業では、ビデオ、DVDなどを使って、実際の映像から日本の地域や文化を広く理解する。また、ゲストを招いて、さまざまな地域の紹介や討論を行う。地域と文化Bでは、日本の北の地域(東京より北)を中心に紹介する。
テキスト	特になし。
成績評価の方法	日々の授業への出席と活発な参加・短い事例報告・短い発表。

・特定研究

授業科目	日本語・日本文化特別研究Ⅰ
担当教官	中川 正弘・田村 泰男・石原 淳也
目 標	一連の特別講義、および見学・実習から、高度な日本語の知識や運用能力を身に付け、日本および広島周辺の社会・文化についての理解を深める。
内 容	日本語・日本文化研修プログラムの一環として、日本語・日本文化に関する講義、日本および広島周辺地域における社会、産業、文化を理解するための実地研修ならびに研究指導を行なう。 オリエンテーション、日本語・日本文化特別講義Ⅰ～Ⅵ、地域研修Ⅰ～Ⅵ、研修レポート構想発表
テキスト	必要に応じてプリントを配布。
成績評価の方法	出席・レポート・宿題

授業科目	日本語・日本文化特別研究Ⅱ
担当教官	中川 正弘・田村 泰男・石原 淳也
目 標	一連の特別講義、および見学・実習から、高度な日本語の知識や運用能力を身に付け、日本および広島周辺の社会・文化についての理解を深める。
内 容	日本語・日本文化研修プログラムの一環として、日本語・日本文化に関する講義、日本および広島周辺地域における社会、産業、文化を理解するための実地研修ならびに研究指導を行なう。 オリエンテーション 研修レポート構想発表 日本語・日本文化特別講義Ⅶ～Ⅻ 地域研修Ⅶ～Ⅻ 研修レポート要旨発表
テキスト	必要に応じてプリントを配布。
成績評価の方法	出席・レポート・宿題

(霞キャンパス)

・レベル1

授業科目	総合日本語初級 I A
担当教官	山中 康子
目 標	かな及び基本的な漢字の読み方・書き方、初歩的な文法を習得させる。
内 容	1.文字の導入 2.基本文型の導入 3.音読練習 4.口頭及び筆記による応用練習
テキスト	「みんなの日本語初級 I 本冊」 (スリーエーネットワーク)
成績評価の方法	出席・試験・宿題

授業科目	総合日本語初級 I B
担当教官	渡部 浩見
目 標	かな及び基本的な漢字の読み方・書き方、初歩的な文法を習得させる。
内 容	1.文字の導入 2.基本文型の導入 3.音読練習 4.口頭及び筆記による応用練習
テキスト	「みんなの日本語初級 I 本冊」 (スリーエーネットワーク)
成績評価の方法	出席・試験・宿題

・レベル2

授業科目	総合日本語初級ⅡA
担当教官	渡部 浩見
目 標	初級後半レベルの基礎的な語彙・文型・表現を学習し、併せて種々の場面に応じた実用的な日本語表現能力を習得させる。
内 容	<p>第1週－第5週            依頼表現、可能表現、継続・習慣の表現、理由の表現、意志・予定の表現、完了表現、自動詞／他動詞、推量表現、忠告の表現、命令・禁止表現、テスト(1)</p> <p>第6週－第10週            時間表現、付帯状況の表現、条件表現、目的・目標の表現、状態変化の表現、受身表現、形式名詞、理由・原因の表現、疑問詞疑問文、試行の表現、テスト(2)</p> <p>第11週－第15週            授受表現、目的の表現、様態の表現、移動の表現、難易表現、伝聞表現、使役表現、敬語、テスト(3)</p>
テキスト	「みんなの日本語初級Ⅱ 本冊」 (スリーエーネットワーク)
成績評価の方法	出席・試験

日本語教育部門：留学生関係科目  
(2005年4月～2006年3月)

田 村 泰 男

1. 授業科目一覧

・東広島キャンパス

授 業 科 目	開 設 単位数	学期別週授業時数		備 考
		前 期	後 期	
Elementary Japanese I A	2		2	広島大学短期交換留学生のための授業である。
Elementary Japanese I B	2		2	
Elementary Japanese I C	2		2	
Elementary Japanese I D	2		2	
Elementary Japanese II A	2・2	2	2	
Elementary Japanese II B	2・2	2	2	
Elementary Japanese II C	2・2	2	2	
Intermediate Japanese I A	2		2	
Intermediate Japanese I B	2		2	
Intermediate Japanese I C	2		2	
Intermediate Japanese I D	2	2		
Intermediate Japanese I E	2	2		
Intermediate Japanese I F	2	2		
Intermediate Japanese II A	2		2	
Intermediate Japanese II B	2		2	
Intermediate Japanese II C	2		2	
Intermediate Japanese II D	2	2		
Intermediate Japanese II E	2	2		
Intermediate Japanese II F	2	2		

Advanced Japanese A (Listening)	2	2	
Advanced Japanese B (Listening)	2		2
Advanced Japanese A (Analysis)	2	2	
Advanced Japanese B (Analysis)	2		2
Advanced Japanese A (Expression)	2	2	
Advanced Japanese B (Expression)	2		2
Advanced Japanese A (Classical)	2	2	
Advanced Japanese B (Classical)	2		2
Advanced Japanese A (Lexical)	2	2	
Advanced Japanese B (Lexical)	2		2
Advanced Japanese A (Cinema)	2	2	
Advanced Japanese B (Cinema)	2		2
Japanese Society and Culture A	2	2	
Japanese Society and Culture B	2		2
Japanese Thought and Philosophy A	2	2	
Japanese Thought and Philosophy B	2		2
Japanese Community and Culture A	2	2	
Japanese Community and Culture B	2		2



## 2. 授業内容

(東広島キャンパス)

### ・レベル1

授業科目	Elementary Japanese I A・I B・I C・I D
担当教官	堀田 泰司・渡辺 久美
目 標	かな及び基本的な漢字の読み方・書き方、初歩的な文法を習得させる。
内 容	1.文字の導入      2.基本文型の導入 3.音読練習      4.口頭及び筆記による応用練習
テキスト	「みんなの日本語初級 I 本冊」 (スリーエーネットワーク)
成績評価の方法	出席・試験・宿題

### ・レベル2

授業科目	Elementary Japanese II A・II B・II C
担当教官	恒松 直美・松崎 寛
目 標	初級後半レベルの基礎的な語彙・文型・表現を学習し、併せて種々の場面に応じた実用的な日本語表現能力を習得させる。
内 容	第1週－第5週 依頼表現、可能表現、継続・習慣の表現、理由の表現、意志・予定の表現、完了表現、自動詞／他動詞、推量表現、忠告の表現、命令・禁止表現、テスト(1) 第6週－第10週 時間表現、付帯状況の表現、条件表現、目的・目標の表現、状態変化の表現、受身表現、形式名詞、理由・原因の表現、疑問詞疑問文、試行の表現、テスト(2) 第11週－第15週 授受表現、目的の表現、様態の表現、移動の表現、難易表現、伝聞表現、使役表現、敬語、テスト(3)
テキスト	「みんなの日本語初級 II 本冊」 (スリーエーネットワーク)
成績評価の方法	出席・小テスト・宿題・中間期末試験

・レベル3

授業科目	Intermediate Japanese I A・I B
担当教官	石原 淳也
目 標	中級レベルの長い文章を読み、それが何を伝えようとしたものであるかを確実に読みとる読解力を身に付け、さらにその内容を的確に言語表現できる能力を養うことを目標とする。
内 容	その課に出てくる文型、語彙等について解説を加えた後、長文を読み内容を理解したうえで、長文の内容についての質問に答える。 適宜、トピックに関連した日本文化についての解説を加える。 第1週～第7週 新宿、工場見学、方言、思い出の人形、日本間、青と緑、テスト 第8週～第15週 マンガ、志のままに、すし、河童、寄席、睡眠、テスト
テキスト	「日本語2ndステップ」(白帝社)
成績評価の方法	出席・試験・宿題

授業科目	Intermediate Japanese I C
担当教官	下村 真理子
目 標	さまざまな形式の文章表現を耳から理解できるようになる。
内 容	毎回ひとつのトピックスについての平易な文章をテープを通して聞き、それについての質問に答えていく。文章は、各課ごとに次第に長くなっていくが、練習によって、理解した事柄を口頭でも、筆記でも答えられるようパターン学習する。
テキスト	「毎日の聞き取り50日 vol.1」(凡人社)
成績評価の方法	出席状況と平常点、および期末試験による総合評価。

授業科目	Intermediate Japanese I D・I E
担当教官	石原 淳也
目 標	中級レベルの長文を読み、内容を理解する能力を身に付ける。今までに学んだ基本的な表現を使って、日本語で議論をしたり自分の意見を表現できるようにする。
内 容	扱う内容は以下の通り。 第1週～第7週 グラフの読み方、旅行、手紙、手紙の書き方、買い物、テスト(1) 第8週～第15週 祭り、プレゼント、アンケート、アンケートの方法、テスト(2)
テキスト	「トピックによる日本語総合演習・中級前期」 (スリーエーネットワーク)
成績評価の方法	出席・試験・宿題

授業科目	Intermediate Japanese I F
担当教官	下村 真理子
目 標	さまざまな形式の文章表現を耳から理解できるようになる。
内 容	各課ひとつのトピックスについての文章をテープを通して聞き、それについての質問に答えていく。文章は、各課ごとにの次第に長くなっていくが、練習によって、理解した事柄を口頭でも、筆記でも答えられるようパターン学習する。
テキスト	「毎日の聞き取り 50日 vol.2」 (凡人社)
成績評価の方法	出席状況と平常点、および期末試験による総合評価。

・レベル4

授業科目	Intermediate Japanese II A・II B
担当教官	田村 泰男
目 標	中級レベルの文法・語彙・表現の定着を図るとともに長文読解能力を養成する。
内 容	トピックに基づいて書かれた日本語中級学習者用の読解教材を読み進みながら、中級レベルの文型・語彙・表現を学習し、部分作文によって新出項目の定着を図る。授業では、特に次の語彙・表現の解説を行う。ながら、まい、わけだ、でも、ほど、なら、ても、てくる、てしまう、ながら、よう、がる、ことにする／なる、～とか～とか、てたまらない、ばかり、ものだ、てみる、中、～し～し、かもしれませぬ、つもり、くらい、なければならぬ、まま、～から～にかけて、ものの、～やら～やら、につれて、～ば～ほど、として、によって、ところ、にとって、はず、さえ、うち
テキスト	「テーマ別中級から学ぶ日本語」(研究社)
成績評価の方法	出席・試験・宿題

授業科目	Intermediate Japanese II C
担当教官	坂田 光美
目 標	身近なトピックにより、日本に対する理解を深めるとともに、多様な場面や状況を理解し、語彙を増やす。聞き取りだけでなく、多角的な練習により、総合的な日本語の力を伸ばす。
内 容	教材を聴く前に先ず、(1)イラストによって、教材の内容を概観する。(2)関連語彙や、背景となる知識を導入する。(3)教材の内容に関する短い文章を読み、クイズに答える。 教材を聴いた後、(4)タスクに答える。(5)話題に関連した補足説明を読み、知識を深める。(6)語彙、表現の定着を図るために、口頭練習を行う。(7)音声言語としての日本語についての理解を深める。
テキスト	「毎日の聞き取りplus40 上」(凡人社)
成績評価の方法	試験、出席、課題

授業科目	Intermediate Japanese II D・II E
担当教官	田村 泰男
目 標	中級レベルの文法・語彙・表現の定着を図るとともに長文読解能力を養成する。
内 容	トピックに基づいて書かれた日本語中級学習者用の読解教材を読み進みながら、中級レベルの文型・語彙・表現を学習する。 授業では、特に次の語彙・表現の解説を行う。 ～ざるをえない、～ようになる、できるだけ～、～おかげで、 ～のように、～よりもむしろ～のほうが、～ことだ、～のだ、 ～とはなしに～していると、かえって～、せめて～たら、 ～するやいなや、お／ご～、たとえ～ても、～（と）している、 ～がち、～た／だ上で、～わけにはいかない、～うちに、 ～た途端、～かねない、～とのことである、～にわたって、 ～とともに、まるで～ようだ、～さ／～み／～め
テキスト	「日本語中級読解新版」(アルク)
成績評価の方法	出席・試験・宿題

授業科目	Intermediate Japanese II F
担当教官	坂田 光美
目 標	ニュースの聞き取りを通じて、ニュースに特有な表現・語彙に慣れ、必要な情報を選択する能力を養うとともに、日本社会に対する知識を増やすことを目的とする。
内 容	(前半) 短文聴解 日常的な話題の聴解 1. 自然 2. 事故 3. 生活 4. 社会 (後半) 長文聴解総合的な話題の聴解 1. 社会経済 2. 政治 3. 医学 4. スポーツ
テキスト	プリントを配布する。
成績評価の方法	中間試験、期末試験、及び出席状況を考慮して評価する。

・レベル5

授業科目	Advanced Japanese A (Listening)
担当教官	深見 兼孝
目 標	現代日本のさまざまな問題を取り上げた時事エッセイの聴解能力を養い、併せてそれに特有の語彙・表現を学習する。
内 容	次のような段階を踏んで、内容を理解する練習を行う。 後にそれを文字化したものを読み、理解を補う。 1) キーワードの理解と聞き取り 2) 概要の把握 3) 細部の聞き取り さらに、重要語句の使い方について練習する。
テキスト	市販の中・上級用教材の一部と付属のテープ。および担当者の自主教材。
成績評価の方法	出席・試験・宿題

授業科目	Advanced Japanese B (Listening)
担当教官	深見 兼孝
目 標	ニュースの聴解能力を養い、併せてそれに特有の語彙・表現を学習する。
内 容	ニュースを聞き、次の段階を踏んでその内容を理解する練習を行う。また、スクリプトの完成を行うことによって、漢字、語彙、表現の使い方を学習する。 1) キーワードの理解と聞き取り 2) 概要の聞き取り 3) 細部の聞き取り 4) ディクテーション
テキスト	市販の中・上級用教材の一部と付属のテープ。および担当者の自主教材。
成績評価の方法	出席・試験・宿題

授業科目	Advanced Japanese A (Analysis)
担当教官	中川 正弘
目 標	日本語で文章を綴ることに慣れ、自分たち外国人の日本語を日本人の日本語と比較分析することで日本語の理解を深める。
内 容	自分の使う日本語をはっきりと目に見える形にするために、毎週日本語作文を提出してもらおう。その作文は自分の書いた文章と書き直しが客観的に対照しやすいようにワープロ編集をして返すので、自分の日本語の問題点を考える。授業ではそれらの日本語作文から間違っている文、あるいは何か問題がある文を例に選び、時には何通りもある書き直し方や関連するさまざまな文法、表現の例と比較しながら、日本人の日本語がどのような感覚、心理、考え方を土台としているかを分析し、さまざまな文体的事象について解説していく。前期は日本語への翻訳、要約を多く扱う。
テキスト	用例のプリントを毎回配布する。
成績評価の方法	提出作文、テスト

授業科目	Advanced Japanese B (Analysis)
担当教官	中川 正弘
目 標	日本語で文章を綴ることに慣れ、自分たち外国人の日本語を日本人の日本語と比較分析することで日本語の理解を深める。
内 容	自分の使う日本語をはっきりと目に見える形にするために、毎週日本語作文を提出してもらおう。その作文は自分の書いた文章と書き直しが客観的に対照しやすいようにワープロ編集をして返すので、自分の日本語の問題点を考える。授業ではそれらの日本語作文から間違っている文、あるいは何か問題がある文を例に選び、時には何通りもある書き直し方や関連するさまざまな文法、表現の例と比較しながら、日本人の日本語がどのような感覚、心理、考え方を土台としているかを分析し、さまざまな文体的事象について解説していく。後期は報告文、説明文を多く扱う。
テキスト	用例のプリントを毎回配布する。
成績評価の方法	提出作文、テスト

授業科目	Advanced Japanese A (Expression)
担当教官	浮田 三郎
目 標	日本の諺を教材にして、時には世界各国の諺と対照比較し、日本語的な表現法、比喩表現の面白さ、日本的な考え方、日本の文化や風土などの理解を目指す。
内 容	日本の代表的な諺を、時には世界各国の諺と対照比較しながら、留学生達の意見を発表してもらい、ディスカッションする。日本語的な表現法を学習し、各々の諺が持っているテーマや特徴を、簡単なクイズ形式の設問を用いて、考えてみる機会を与える。 テーマ別には、以下に掲げる通りである。 1. 諺の表現法 2. 親と子 3. 夫婦 4. 恋愛 5. 油断と用心 6. 欲 7. 酒 8. 友 9. 秘密
テキスト	自主教材、金子武雄『日本の諺』（1982年）等
成績評価の方法	授業への出席状況とレポートによって評価する。

授業科目	Advanced Japanese B (Expression)
担当教官	浮田 三郎
目 標	日本の諺を教材にして、時には世界各国の諺と対照比較し、日本語的な表現法、比喩表現の面白さ、日本的な考え方、日本の文化や風土などの理解を目指す。
内 容	日本の代表的な諺を、時には世界各国の諺と対照比較しながら、留学生達の意見を発表してもらい、ディスカッションする。日本語的な表現法を学習し、各々の諺が持っているテーマや特徴を、簡単なクイズ形式の設問を用いて、考えてみる機会を与える。テーマ別には、以下に掲げる通りである。 1.睡眠 2.病気 3.生死 4.季節 5.天候 6.学者 7.教育 8.義理 9.動物と比喩
テキスト	自主教材、金子武雄『日本の諺』（1982年）等
成績評価の方法	授業への出席状況とレポートによって評価する。



授業科目	Advanced Japanese A (Classical)
担当教官	多和田 眞一郎
目 標	「日本語古文」基礎を学習する。 日本語古文読解のための基本的知識を身につける。
内 容	現代日本語との関連を考慮に入れながら、日本語古文を理解するための基礎力を養う。合わせて、研究のための資料として古文書を扱う際の心得についても考える。 (内容) 現代語と古典語、古典語文法基礎、十九世紀の日本語の例、十八世紀の日本語の例、十七世紀の日本語の例、漢文の基礎等
テキスト	自主教材（プリント配布）
成績評価の方法	出席、試験

授業科目	Advanced Japanese B (Classical)
担当教官	多和田 眞一郎
目 標	日本語古文特別演習Aを踏まえ、「日本語古文」の応用学習をする。日本語古文読解のための応用的知識を身につける。
内 容	日本語古文読解ための応用力を養う。合わせて、研究のための資料として古文書を扱う際の問題点についても考える。 (内容) 現代語と古典語、古典語文法、十九世紀の日本語の読解、十八世紀の日本語の読解、十七世紀の日本語の読解、漢文の読解等
テキスト	自主教材（プリント配布）
成績評価の方法	出席、試験

授業科目	Advanced Japanese A (Lexical)
担当教官	田村 泰男
目 標	常用漢字に採択されている漢字の訓読みや慣用句、擬音語・擬態語を学習することによって、より自然な日本語表現能力の習得を目指す。
内 容	1. 漢字の訓読み 2. 同訓異字 3. 各種比喩表現 4. 身体語彙を使った慣用句 5. 動植物の語彙を使った慣用句 6. 擬音語・擬態語
テキスト	プリントを配布する。
成績評価の方法	テスト、出席、宿題

授業科目	Advanced Japanese B (Lexical)
担当教官	田村 泰男
目 標	慣用的な読み方をする漢字や類義語、接頭辞・接尾辞などを学習することによって、日本語での表現能力を高めるとともに、各種類意表現のもつ意味上の微妙な違いについての理解をはかる。
内 容	1. 特別な読み方をする漢字 2. 送り仮名によって読み方の違う漢字 3. 読み方が二通りある漢字熟語 4. 国字    5. 疊語    6. 類義語・類意表現 7. 若者語   8. 外来語   9. 接頭辞・接尾辞
テキスト	プリントを配布する。
成績評価の方法	テスト、出席、宿題

授業科目	Advanced Japanese A (Cinema)
担当教官	石原 淳也
目 標	日本映画・アニメーションを見ていく中で、1)日本語の音声に関する解説および聞き取り練習を行うこと、2)セリフに出てくる語の用法・意味の解説を通じて語彙を増やすこと、3)映画の中で出演者がなぜそのように振る舞うかということを通じて日本人の考え方を理解すること、4)映画の中で扱われるエピソードを通じて日本の文化を知ること为目标とする。
内 容	第1週-第9週 「金融腐食列島」を最後まで見た後、もう一度最初から少しずつ音声、語彙、行動等について質問、解説を行う。 第10週-第15週 「うる星やつら」を見た後、もう一度最初から少しずつ音声、語彙、行動等について質問、解説を行う。
テキスト	必要に応じプリントを配布。
成績評価の方法	出席・授業態度・レポート

授業科目	Advanced Japanese B (Cinema)
担当教官	石原 淳也
目 標	日本映画・アニメーションを見ていく中で、 1)日本語の音声に関する解説および聞き取り練習を行うこと 2)セリフに出てくる語の用法・意味の解説を通じて語彙を増やすこと 3)映画の中で出演者がなぜそのように振る舞うかということを通じて日本人の考え方を理解すること 4)映画の中で扱われるエピソードを通じて日本の文化を知ること为目标とする。
内 容	映画・アニメーションを見た後、もう一度最初から少しずつ音声、語彙、行動等について質問、解説を行う。
テキスト	必要に応じプリントを配布。
成績評価の方法	出席・授業態度・レポート

・日本事情

授業科目	Japanese Society and Culture A
担当教官	中矢 礼美
目 標	この授業の目標は、現代日本における特徴的な社会現象あるいは問題をとりあげ、社会学、生命倫理学、教育学の視点から読み解き、日本の社会と文化に対する認識をより深めることである。
内 容	1. 2. 若者のライフスタイルと職業意識 3. 4. 日本における「中流階級文化」 5. 6. ジェンダーフリー 7. 試験 8. 9. 生命倫理 10. 11. 12. 現代家族の様相 13. 14. 現代の教育課題と教育改革 15. 試験.
テキスト	テキストは特になし。毎回の授業テーマに沿った資料をコピーして配布する。
成績評価の方法	出席50%、試験50%

授業科目	Japanese Society and Culture B
担当教官	中矢 礼美
目 標	この授業の目標は、現代日本における特徴的な社会現象あるいは問題をとりあげ、社会学、教育学、人類学の視点から読み解き、日本の社会と文化に対する認識をより深めることである。
内 容	1. 2. メディアとは何か 3. 4. サブカルチャーとは何か 5. 6. 少年犯罪 7. 試験 8. 9. 男性学と女性学 10. 11. 教育問題—不登校・学級崩壊 12. 13. 14. 観光人類学—観光のしかけ・観光が作り出す文化 15. 試験
テキスト	テキストは特になし。毎回の授業テーマに沿った資料をコピーして配布する。
成績評価の方法	出席50%、試験50%

授業科目	Japanese Thought and Philosophy A
担当教官	橋本 敬司
目 標	日本の思想・哲学を歴史的あるいは現代的に考察することにより、学習者各自が日本と日本人を発見するとともに自らの思想を形成していくこと。
内 容	方丈記、平家物語などのテキストを読み、歴史的に日本人の思想・哲学を支える無常観・死生観・美意識などについて考察する。
テキスト	随時コピーを配布する。
成績評価の方法	出席とレポート

授業科目	Japanese Thought and Philosophy B
担当教官	橋本 敬司
目 標	日本の思想・哲学を歴史的あるいは現代的に考察することにより、学習者各自が日本と日本人を発見するとともに自らの思想を形成していくこと。
内 容	「日本の思想・哲学A」の学習をもとに、現代の病理として生じた事件を取り上げ、その裏に潜む日本人の思想・哲学について考察する。
テキスト	随時コピーを配布する。
成績評価の方法	出席とレポート

授業科目	Japanese Community and Culture A
担当教官	玉岡 賀津雄
目 標	日本の地域と文化を理解すること。
内 容	広島大学の留学生を対象に、日本の地域と文化を紹介する。地域の文化遺産、風土、人々の生活を探っていく。授業では、ビデオ、DVDなどを使って、実際の映像から日本の地域や文化を広く理解する。また、ゲストを招いて、さまざまな地域の紹介や討論を行う。地域と文化Aでは、日本の南の地域(東京から南)を中心に紹介する。
テキスト	特になし
成績評価の方法	日々の授業への出席と活発な参加・短い事例報告・短い発表。

授業科目	Japanese Community and Culture B
担当教官	玉岡 賀津雄
目 標	日本の地域と文化を理解すること。
内 容	地域と文化Aと引き続き、広島大学の留学生を対象に、日本の地域と文化を紹介する。地域の文化遺産、風土、人々の生活を探っていく。授業では、ビデオ、DVDなどを使って、実際の映像から日本の地域や文化を広く理解する。また、ゲストを招いて、さまざまな地域の紹介や討論を行う。地域と文化Bでは、日本の北の地域(東京より北)を中心に紹介する。
テキスト	特になし。
成績評価の方法	日々の授業への出席と活発な参加・短い事例報告・短い発表。

第 20 期 (2004—2005)  
日本語・日本文化研修プログラム

石原淳也

<プログラム概要>

本プログラムは、本留学生センターで受け入れる大使館推薦による「日本語・日本文化研修プログラム」研修留学生を中心に、部局間協定に基づき教育学部で受け入れられている「日本語・日本文化研修プログラム」研修留学生を対象に加え、留学生センターの四人の教員からなる「日本語・日本文化研修プログラム実施委員会」により運営されている。また、本プログラムは (1) 全学の留学生向けの「日本語・日本事情」で開設されているクラスから選択履修する「日本語研修」、(2) 学内外の講師による特別講義および文化施設・文化財等の見学などからなる「日本語・日本文化特別研究 I, II」、そして (3) 指導教官のもとでの「個別指導および課題研究」の三つの内容により構成されている。

研修生は「個別指導および課題研究」での研究経過を「日本語・日本文化特別研究 I, II」の時間中に構想発表および中間発表として発表するとともに、修了式の前に行われる研修成果発表会においてその研究の成果を発表し、指導教官と留学生センターにレポートを提出する。留学生センターでは毎年これらをまとめて研修レポート集として刊行している。

<受け入れ学生の概要>

第 20 期の研修留学生の出身国、男女比の構成は次の通りであった (括弧内は、うち部局間協定に基づく教育学部受け入れ人数。)

男子 5 女子 4 (1)

出身国

韓国 2、中国 3 (1)、カナダ 1、オランダ 1、イラン 1、エジプト 1、

<特別講義等>

16年度(第20期)日本語・日本文化特別研究、および、その他の行事は、以下の通りである。

2004年度後期 日本語・日本文化研修プログラム(第20期前半)

- 特別研究Ⅰ -

10月

8日 オリエンテーション・ホストファミリー申し込み

9日 西条オリエンテーションバスツアー

13日 開講式(教育学部第3・4会議室)

15日 特別講義「コンピュータ利用」

22日 広島見学1(広島城・平和公園)

29日 (休講:留学生センター講演・討論会)

11月

5日 (休日:広島大学創立記念日)

12日 広島見学2(現代美術館・映像文化ライブラリー)

19日 サタケ見学

20日 (全学果物狩りツアー)

26日 宮島見学

12月

3日 研修レポート発表(12月帰国研修生)

10日 特別講義「日本人にとっての平和」

17日 亀齢酒造見学

1月

15-16日 江田島国際交流キャンプ

21日 特別講義「日本の経済-財政の役割と私たちの暮らし」

28日 福山見学

2月

4日 マツダ見学(工事のため中止)

11日 (休日:建国記念日)

3月



29-30 日 瀬戸内海しまなみ研修ツアー

2005 年度前期 日本語・日本文化研修プログラム (第 20 期後半)

- 特別研究 II -

4 月

15 日 オリエンテーション 2

22 日 尾道見学 (田村)

29 日 祝日

5 月

6 日 休講

13 日 研修レポート構想発表 (石原)

20 日 特別講義「日本語音声学・音韻論」(石原)

27 日 特別講義「日本の教育制度」(田畑：国際協力研究科)

6 月

3 日 特別講義「日本の宗教文化」(中村：教育学研究科)

10 日 特別講義「文化比較の視点」(浮田)

17 日 下蒲刈島・呉市見学 (中川)

24 日 特別講義「フェミニズム／スピリチュアリズム」(恒松)

7 月

1 日 マツダ見学

8 日 特別講義「日本語と文体」(中川)

15 日 特別講義「現代日本語の語彙」(田村)

22 日 松江・出雲見学準備

29-30 日 松江・出雲見学旅行 (石原)

9 月

1 日 レポート提出締め切り

6 日 レポート発表会、修了式

第6期 平成17年度（2005年度）  
広島大学日韓共同理工系学部留学生事業入学前予備教育

石原淳也

平成10年10月の「日韓共同宣言」、平成12年8月に文部省より通知のあった「日韓共同理工系学部留学生事業実施要項」、同年8月に決定された「広島大学日韓理工系学部留学生事業」実施要項および「広島大学日韓理工系学部留学生事業」入学前予備教育実施要項に基づき、平成12年11月より広島大学においても5名の学部入学前予備教育生に対する「広島大学日韓理工系学部留学生事業」の予備教育が開始された。以来、平成15年度まで各5名ずつ、平成16年度は2名、そして本17年度は再び5名の受け入れとなった。

留学生センターは同事業の立ち上げ段階である平成12年6月の「広島大学日韓共同理工系学部留学生事業」ワーキンググループ（国際交流委員会の下に設置され、同年8月「広島大学日韓理工系学部留学生事業」実施部会となる。）の発足段階から同事業の予備教育実施機関として中心的な役割を果たしてきた（平成12年度、13年度の経緯については多和田教授による「広島大学日韓理工系学部留学生事業発足前後」『広島大学留学生教育第6号』を参照。）が、法人化による国際交流委員会の廃止で、平成16年度より「広島大学日韓理工系学部留学生事業」実施部会は留学生センター運営委員会のもとに組織されることとなり、本事業に対する留学生センターの関与はより大きくなってきている。

本事業において留学生センターは

1. 「広島大学日韓共同理工系学部留学生事業」実施部会への参加
2. 「広島大学日韓共同理工系学部留学生事業」予備教育の実施
3. 学部入学前予備教育生に対する修学上・生活上の指導・助言（センターの部会委員は予備教育期間中指導教員となる）
4. 「広島大学日韓共同理工系学部留学生事業」予備教育の計画策定
5. 見学引率

6. 日本語教育謝金講師の指導・サポート
  7. その他謝金講師のサポート
  8. 予備教育講師謝金等経費の管理
  9. 学生チューターの指導
- 等の業務を行っている。

平成 15 年度までは、入学前予備教育において、日韓共同理工系学部留学生用に特別の日本語教育を開講していたが、平成 16 年度からは全学の留学生に向け開講されている「日本語・日本事情」のレベル 3 とレベル 4 を週当たり計 6 コマ（12 時間）履修させることとなった。また、この変更に伴い、学生の日本語能力の差にきめ細かく目配りできるよう、本年度より、本予備教育生用に日本語会話、日本語作文を各 1 コマ開設することとした。更に本年度は生物系の学科へ進学する可能性のある者がいるため、昨年度は開講しなかった生物のクラスを開設することとした。なお、本 17 年度における予備教育科目および週当たり時間数は以下の通りである。

	月	火	水	木	金
1		物理 1 藤原	数学 1 金岡	物理 2 板倉	日本語会話 坂田
2	日本語 L4 田村	日本語 L3 渡辺	生物 福井	日本語 L4 坂田	文化論 坂田
3	日本語 L3 下村	化学 2 山平	日本語 L4 山中	日本語 L3 浮田	日本語作文 坂田
4	化学 1 大久	英語 石原		数学 2 田中	

05 年度日韓共同理工系学部留学生  
行事予定表

	期間	行事等	見学（金曜）	備考
w0	10/2-10/8	4 渡日、5 諸手続 5 開講式、7 プレイスメントテスト 7 交流会館オリ、 8 オリバスツアー		
w1	10/9-10/15	10 体育の日 11 授業開始、 11 全学オリ、13 図書館オリ		月なし
w2	10/16-10/22		広島城、平和公園 見学	
w3	10/23-10/29			
w4	10/30-11/5	3 文化の日		木なし
w5	11/6-11/12	12 交流会館防災訓練		
w6	11/13-11/19	19 全学バス旅行		
w7	11/20-11/26	23 勤労感謝の日	宮島見学	水なし
w8	11/27-12/3	2 留学生懇親会		
w9	12/4-12/10			
w10	12/11-12/17			
w11	12/18-12/24	23 天皇誕生日		金なし
		冬休み（12/23-1/9）		
w12	1/8-1/14	9 成人の日		月なし
w13	1/15-1/21			
w14	1/22-1/28			
w15	1/29-2/4		マツダ見学	
w16	2/5-2/11	補講期間 10 修了式 11 建国記念日		
w17	2/12-2/18			
			3/30, 31 しま なみ研修旅行	

## 平成 17 年度広島大学留学生センター指導部門活動報告 および広島大学留学生支援調査の結果報告

広島大学留学生センター指導部門

助教授 中矢 礼 美

教授 玉岡 賀津雄

### 1. はじめに

広島大学では、世界トップレベルの特色ある総合研究大学を目指して、『「新」国際戦略』を 2005 年 12 月 8 日に打ち出した。新国際戦略のピローは、(1)「知」の国際化を促進する、(2)「人」の国際化を促進する、(3)「社会貢献」の国際化を促進する、(4)「キャンパス」の国際化を促進する、である。これらを実現すべく掲げられた戦略は、(1)ブランド化、(2)ユニバーサル化、(3)ネットワーク化、(4)デヴォルーション化、(5)ビジネス化、(6)インフラ整備、である。これら 6 つの戦略は今年度途中で打ち出されたものであるため、年度計画には立てられていなかったものであるが、それでも迅速に対応できたと評価できる。例えば、2 月 20 日に開催した国際交流会では、卒業生を招いて「留学経験をいかに生かすか」という講演および討論会を行い、ブランド化戦略の「国際的人材育成に努める大学」として“ヒロダイ”生の育成や「国際市場へ進出する大学づくり」に意識して取り組んだ。また 3 月 27 日には「キャンパスの国際化」フォーラムを開催し、ユニバーサル化戦略の「ひと」にフレンドリーな大学について活発な議論を交わす場を提供した。これらの新しい取り組みとは別に、毎年 2 回行っている留学生支援調査は、ユニバーサル化戦略の「顧客満足度」の改善に努める大学づくりを検証するためには不可欠の材料を提供している。

ちなみにこの「新」戦略以前に立てた年度計画は、以下の通りである。

17年度計画
・留学生相談協議会を年 2 回開催し、留学生に関連する最新情報にもとづく意見交換会や状況報告を行い、関係部局・センターとの留学生支援の連携を図る。
・国際交流会を 2 回開催し、留学生関係部局・センターの教職員、留学生および日本人学生の意見交換や交流を図り、学生の生活・学習環境の整備を促進する。
・学内外の相談窓口について留学生に広く周知し、支援活動を行う際には適宜連携を図る。
・日本の文化・社会に適応できるように、留学生が直面する問題について、制度・法律の側面からの研究を行う。
・社会連携・貢献として、地域の人々とともに「外国人子弟に対する日本語教育に関する研究」を行い、成果を公表する。

- |   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・国際交流ボランティアの充実を図るためにオリエンテーションを開催する。ボランティアの活用を量的・質的に高めるために、活動報告の提出を求め、改善に努める。</li> </ul>                |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育学研究科が新設する「特別プログラム」の講義を担当する。</li> </ul>  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ドイツのルール大学言語研究所やオーストラリアのニュー・サウス・ウェールズ大学等との共同研究を継続する。さらに、中国の西安外語大学およびトルコのチャナッカレ大学との共同研究も始める。</li> </ul> |

これらの計画は、以下の通り、ほぼ達成できたといえよう。

- ・留学生相談協議会を開催し、留学生に関連する最新情報にもとづく意見交換会や状況報告を行い、関係部局・センターとの留学生支援の連携を図った。
- ・国際交流会を開催し、留学生関係部局・センターの教職員、留学生および日本人学生の意見交換や交流を図り、学生の生活・学習環境の整備を促進した。
- ・学内外の相談窓口について留学生に広く周知し、支援活動を行う際には適宜連携を図った。
- ・日本の文化・社会に適応できるように、留学生が直面する問題について、制度・法律の側面からの研究を行い、支援活動に役立てた。
- ・社会連携・貢献として、地域の人々とともに「外国人子弟に対する日本語教育に関する研究」を行い、報告書としてまとめた。その成果は HP において公表し、学内においては公開発表会において成果発表を行った。
- ・国際交流ボランティアの充実を図るためにオリエンテーションを 3 回開催した。ボランティアの活用を量的・質的に高めるために、活動報告を求め、改善に努めた。
- ・アメリカ、ドイツ、オーストラリア、トルコ、韓国、中国などの大学等との共同研究を行い、国際的な学術ネットワークを広げた。
- ・留学生支援調査を前期 1 回、後期 1 回を行い、その成果を教職員に公表することで、現状の把握と情報の共有を図った。また、支援調査において寄せられた疑問や不平・不満等については、希望者に対して個別対応を行った。

ただし改善事項としては、以下の点があげられる。

- ・国際交流会については、まだまだ参加者が少ないため、今後さらに広報に努め、より多くの参加者を集める必要がある。
- ・留学生専門教育教員による相談協議会へ常に参加しない、また連絡を取り合うことができない教員がおり、いくつかの部局との連携が図れない状況がある。これについては、センターとして対処できない。
- ・制度や法律の研究を進めても、全学の留学生に周知・徹底させることが難しい。新入生へのオリエンテーション以外にも来年度は方策を立てる必要がある。

これらの改善事項を踏まえ、来年度の計画の見直しおよび計画の実行に努力していく予定である。

また、上記の年度計画に加え、実際の日々の業務においてはさらに広範な指導・支援活動、研究・開発活動を行っている。その活動目標・内容の概要について、以下報告を行うこととする。

## 2. 平成 17 年度の指導部門活動報告

## 2.1 活動の概要

### 1) 指導・支援活動

#### (1) オリエンテーション活動

前年度と枠組みとしては同じく、新しく広島大学に来る留学生に対しては、6段階のオリエンテーションを行った。①ボランティア・チューターのためのオリエンテーション、②国際交流会館生活オリエンテーション、③全学の留学生のためのオリエンテーション、④東広島市オリエンテーション・バスツアー、⑤健康管理オリエンテーション、⑥消防・防犯オリエンテーションである。ただし、内容については、更新・拡充を図った。

#### (2) 相談業務

日常の相談とカウンセリングは、教官2名が終日随時相談を受け付けており、臨床心理士の資格を持つ非常勤の心理相談員1名が、週1回留学生の心理的な面の相談にあたっている。2001年より行っている留学生支援調査によって、相談者数は軒並み上昇している。今年度の大きな改革・改善事項としてあげられるのは、霞キャンパスでの相談業務の開始である。霞キャンパスの留学生からこれまでも相談があったが、距離の問題もあり、対応は電話かメールに限られていたためである。霞キャンパス留学生センター内に心理相談室を整備し、2月より非常勤の心理相談員が月2回相談にあたることとなった。既に相談を受け付けており、一定の成果が出ていると評価できる。

#### (3) 交流支援活動

平成17年度現在、日本人学生国際交流ボランティア制度に登録している日本人学生は約400名である。この制度を用いて、日本人学生が新渡日留学生を助けたり、留学生の会話パートナーとして互いに語学を教えあったりしながら、国際交流活動を行えるようコーディネートしている。2005年4月1日から2006年3月31日までにメーリングリストを用いてボランティア・チューターや日本語学習支援などの募集をした件数は40件である（HUSAの会話パートナーを除く）。チューターおよび日本語学習支援のマッチングにあたっての対応メール総数は、のべ200回以上にのぼる。通常、マッチング後は、日本人および留学生から通常1、2回の報告を義務付けており、問題が発生した場合には対応を行うが、今年度は問題発生の報告は受けなかった。今後の課題としては、このボランティア学生の質的向上に努め、留学生の支援体制の充実を一層図るために、報告を必ずしてもらうように一層呼びかけることである。

このほか、留学生国際交流ボランティア制度によって、ちょうど100名の登録があり、留学生が教育委員会、高校・中学・小学校、地域住民の国際交流活動、県および市町村の国際交流企画などの活動に参加できるようコーディネートしている。この制度に関しては、運用について課題が残っているため、来年度の課題とする。

#### (4) 学内外における留学生支援体制の整備

学内における留学生支援体制の整備として、留学生相談協議会を開催した。留学生センターとともに留学生の相談・指導に関わる各部署の留学生専門教育教官、保健管理センター、ハラスメント相談窓口教員らとともに、現在の留学生の状況、本学の対応、問題解決に向けての協議を行った。日常的には、留学生相談業務の際の援助の呼びかけ、その他随時必要に応じて個人的な情報交換を行った。

学外では、広島地域留学生団体育成支援協議会において広島県留学生会の支援、広島地域の国際交流の推進、日本での就職についてのガイダンス、広島地域進学説明および相談会、留学生関連の諸問題の議論などを行っている。

## 2) 研究と開発活動

今年度も留学生全員を対象として、広島大学に対する満足度調査を年2回（前期・後期）実施した。この調査では、留学生の学習・生活の実態、異文化理解、異文化適応過程、日本語・英語の言語理解の実態、関連性および因果関係を明らかにしている。日常的に行っている指導・カウンセリングを通して明らかになった留学生の学習・生活面での新たな問題あるいは事件については、それらに対処するための情報を定期的に収集し、分析した。これらの調査・研究をもとにオリエンテーションで配布・説明する内容を更新あるいは充実させている。またパンフレットおよびホームページを開発し、留学生に豊富な情報の提供と指導助言の質的な充実を図っている。

## 2.2 平成 17 年度前期の活動

### 3月上旬 17年度前期ボランティア・チューターの募集

国際交流ボランティアに呼びかけ、渡日後の生活支援をお願いした。日本語研修生の多くは日本語がまだ不十分であるにもかかわらず、有償のボランティアはつけられていないためである。2月は試験、続いて春休み期間に入るため、今回も日本人の応募者が少なく、またスケジュール調整も困難であった。新規渡日留学生の人数が分かるよりも早めにチューターの確保が必要である。

### 3月30日(水) 前期ボランティア・チューターのためのオリエンテーション

国際交流ボランティアの希望者から選ばれたボランティア・チューターのために、支援活動や留学生のプログラム等についてのオリエンテーションとマッチングを2時間に渡って行った。まず、留学生支援として行ってもらいたい活動として、外国人登録、銀行口座開設、国際交流会館の入居手続き、下宿探しなどの最低限求められる活



動や日常生活を始めるにあたって必要な生活用品の調達やキャンパスおよび市内の案内などの活動について、また異文化コミュニケーションに関わる注意事項などについて説明した。ついで留学生が所属するプログラムの説明、留学生のスケジュールなどについて概要を説明した後、ボランティア・チューターの希望（渡日スケジュール、出身国、性別）によって、自分たちでどの留学生のチューターになるかを決めてもらった。一度の説明では理解できないことも多いが、出迎え後に留学生に対して行うオリエンテーションを一緒に聞いてもらうことで、すべきことの確認を行っている。

#### 4月5日(火)～4月8日(金) 新渡日留学生の出迎えとオリエンテーション

国際交流ボランティアのチューターと共に、大学の公用車を用いて、JR 東広島駅で横断幕を持って留学生を迎えた。そのまま多くの留学生の宿舎となる国際交流会館に行き、その日のうちに国際交流会館の入居申込みのための基本的な書類の作成を行い、翌日から市役所で行う外国人登録や国民健康保険や銀行での口座開設などについての説明を行った。また、今後のスケジュールを配布し、重要な行事と場所を説明し、国際交流会館周辺の交通機関、病院、警察、市役所、スーパー、レストランなど、すぐに必要と思われる情報について基本的なオリエンテーションを行った。

#### 4月8日(金) 国際交流会館生活オリエンテーション

日本語研修生全員と一部の日本語・日本文化研修プログラムの留学生および他の国際交流会館に住んでいる留学生(留学生センター所属以外の留学生)に対して、国際交流会館に住むためのオリエンテーションを国際交流会館2階で行った。家賃の支払い、ゴミの出し方、電話の使用、郵便物の受け取り、長期の不在など、会館および大学内の無線 LAN の使い方、さまざまな生活上の留意点を詳細に説明した。なお、このオリエンテーションには、学术交流で広島大学に来ている研究者(国際交流会館 C 棟に居住)も含まれている。

#### 4月11日(月) 全学留学生オリエンテーション

新入留学生に対して、日本語と英語によるオリエンテーションを行った。このオリエンテーションでは、留学生相談、ハラスメント相談、健康保険、アパートを借りる際の保証人制度、携帯電話の購入、一時帰国、アルバイト、国際免許状、日本での免許の取得、車の購入、駐車証明など、大学の留学生支援体制および生活全般の説明を行った。なお、防犯対策として広島大学留学生センターでは、『防犯を防ぐために(To Prevent Crimes)』(1999)という日本語と英語の対訳のパンフレットを作成しており、これを配布して、戸締り、泥棒、ひったくり、自転車泥棒、スリ、性犯罪防止対策な

どについて説明を行った。

#### **4月9日(土) 東広島市オリエンテーション・バスツアー**

東広島市のオリエンテーションのためのバスツアーを行った。広島大学の東広島地区のキャンパス全体や各種の施設、広島国際プラザ、東広島体育館、三つ城古墳、東広島中央図書館、西条警察署、西条駅、各種病院などを回りながら、利用方法などについて説明した。これは、大学およびその周辺の環境を体験的に知ってもらうという企画のオリエンテーションである。

#### **4月13日(木) 図書館施設に関するオリエンテーション**

広島大学中央図書館の利用サービス企画と共同で、全学留学生を対象に図書館施設のオリエンテーションを行っている。まず、東広島キャンパス、霞キャンパス、東千田キャンパスの図書館施設の紹介から始まり、貸し出しの方法、他の図書館からの貸し出しとコピーサービス、図書館内でのコピーの方法、ベースメントの書庫の利用方法、AV 施設の利用、閲覧のための個室の利用など、具体的に現場で説明を行った。

#### **4月18日(月) 第1回 国際交流ボランティア・オリエンテーション**

国際交流ボランティアに登録したい学生は、随時中矢の研究室に訪れ、そのたびに30分以上の説明と質疑応答を行い、登録するのに1時間弱かかっていた。その数は年間約100人であり、その他の業務活動を圧迫するため、年に3回のオリエンテーションと登録を実施することとした。オリエンテーションでは、制度の概要や注意事項について説明し、その後学生が登録用紙に記入・提出することとした。

#### **4月27日(木) 健康管理オリエンテーション**

このオリエンテーションでは、日本の健康保険の仕組みについて説明した。留学生が病院で診察や治療を受けた場合、国民健康保険が、治療費の70パーセントを補助し、さらに、日本国際教育協会(AIEJ)の外国人留学生医療補助制度により、留学生負担分の30パーセントの内80パーセントまで補助することができる(詳細は、広島大学留学生センター、2000を参照)。その結果、留学生の負担分が、治療費のわずか6パーセントになることを説明した。その際、日本国際教育協会が発行している『留学生のための健康のしおり』(第2刷、1999年)を配布して、説明に利用している。また、東広島市にある主な病院および外国語が通じる病院についての一覧表を配布して、情報提供の徹底を計った。さらに、健康診断に必要な書類の記入を英語で説明し、保険証と

いっしょに携帯するよう指導した。

### 5月13日(土) 防災・消防オリエンテーション

春と秋の年2回、留学生がある程度生活に慣れてきて、来日後1ヵ月くらい経った時期に、賀茂広域消防署の協力を得て、国際交流会館で消防訓練を行っている。梯子車による7階からの脱出訓練、消火器操作訓練などの実地訓練を含んでおり、訓練を通して、留学生に防災の知識が身につくように努めている。ただし、このオリエンテーションは国際交流会館に居住する留学生のみであり、他の留学生には、学内で行われる防災訓練に参加を義務づける必要がある。

### 5月13日(木) ホームページおよび文献検索(電子ジャーナルなどに)に関するオリエンテーション

今年度より、図書館が本格的に電子ジャーナルの導入を行っており、インターネット上での検索が今後の大学・大学院での学習に欠かせないものとなっていくと思われる。そこで、日本人の学部・大学院生に先がけて、留学生のためにインターネットを使った図書館の利用方法についてのオリエンテーションを行うことにした。内容は、広島大学所蔵の書籍・雑誌検索のための広島大学所蔵目録検索(OPAC)の利用方法、電子図書室の内容紹介、電子ジャーナルの検索および印刷、引用報告(citation report)の見方、インパクト指数(impact factor)の紹介と計算方法など、詳細の説明を行った。

### 5月18日(水) 広島地域留学生団体育成支援協議会

広島地域レベルでは、広島地域留学生団体育成支援協議会で広島地域の大学関係者などが集まって、留学生関連の問題、支援、交流、研修などを実施してきた。これは、モデル事業が終了した2001年度も継続している。ほぼ2カ月に1回くらいの割合で開催し、地域レベルでの留学生支援を行っている。

### 8月1日 留学生との学長ミーティング

以下、報告(要約)。

日時： 平成17年8月1日 15:00~17:00

場所： 学生会館会議室1

参加留学生： トルコ、マレーシア、中国(2名)、韓国(2名) エジプト、インドネシア(2名)、バングラデシュ、ナイジェリア、アメリカ、ブラジルの計13名。

大学側： 牟田学長、二宮副学長、多和田留学生センター長、玉岡教授(留学生セン

ター)、下村相談員(留学生センター)、吉田留学交流課長、小竹、山田(留学交流グループ)

昨年4月に引き続き、第二回目の留学生と学長とのミーティングを開催した。ミーティングでは、留学生から広島大学の環境や支援体制について様々な感想や意見・要望が出され、学長と和やかな対談が行われた。

以下、紙幅の関係上、留学生からの出された意見・要望についてトピック別にまとめて報告を行う。

#### ①広島大学における留学生の位置づけについて

広島大学の環境については満足しているが、留学生が日本人学生と区別なく広大の一学生とみなされることを希望する意見が出された。

これに対して学長からは賛同が表明され、また同窓会への加入あるいは出身国の海外同窓会設立が提案された。

#### ②交流について

留学生と日本人学生および地域との交流には、文化の違いによる難しさがあるが、大学主催の集まりに参加することで寂しさがなくなったという感想が出された。研究室でお茶会が開かれているため、スムーズな交流が行えているという感想も聞かれた。

#### ③広島大学のホームページについて

来日前に、広島大学のホームページから情報を収集することができ、大学選択の際に非常に便利であったことが述べられた。同窓会のサイトがあるとよりよいという意見が出された。また、ホームページ上の情報と実際の状況の間には、ギャップがないことが確認された。

#### ④留学生支援活動について

インドネシアの津波災害への支援および「家族のための日本語クラス」の開講について感謝が述べられた。同時に、日本語クラスの問題として、小さい子どもを抱えている家庭では、夫婦で一緒に受講できない問題があることが述べられた。

#### ⑤幼稚園・保育所問題について

経済問題と子どもの幼稚園・保育所問題について指摘された。

この問題については、東広島市の規定に沿うしかないが、留学生センターでは個別に情報提供を行うことが伝えられた。

#### ⑥指導体制について

留学期間の延長問題についての適切な指導や私費の学部学生に対する細やかな配慮に欠けている問題が指摘された。

#### ⑦交通機関について

夜間に公共の交通手段がなく、不便である問題が指摘された。

#### ⑧奨学金について

日韓プログラムの奨学金の延長が要求された。それに対してセンター長からプログラムについての説明と他の奨学金制度についての説明がなされた。

⑨ 宿舎について

国際交流会館のインターネット環境についての改善が求められた。また、宿舎の入居期間の延長についての要望が出された。

⑩ 留学生センターの予備教育プログラムについて

講義の時間帯やプログラム内容等の検討について要望が出された。

⑪ 障害を持つ留学生の受け入れ環境・体制について

障害者に対するより細やかな環境整備について要望が出された。

学長からは、広島大学は障害を持った学生受け入れのランキングでトップであること、COEプログラムにおいて、障害者研究をしていることなど、積極的な大学の取り組みが紹介された。

⑫ 情報入手について

留学前に、大学から情報収集ルートを明確に提示してもらいたいという要望がされた。

⑬ 留学生の個人情報について

自然災害時に備えて、緊急連絡先リストを作成するために、個人情報の入手について質問が出された。それに対して、個人情報の提供は難しいが、各国の留学生会のホームページを利用してリストを作成してはどうかという提案が副学長からなされた。

(文責：中矢礼美)

## 2.2 平成 17 年度後期の活動

### 9 月 29 日 国際交流ボランティア チューター・オリエンテーション

前期と同様に行った。

### 10 月 4 日(火)～10 月 6 日(金) 新渡日留学生の出迎えとオリエンテーション

前期と同様に行った。

### 10 月 7 日(金) 国際交流会館生活オリエンテーション

内容は、前期と同様。

### 10 月 8 日(土) 東広島市オリエンテーション・バスツアー

前期とは趣向を変え、竹原の伝統的な町並みを散策する時間を取り入れた。

**10月11日(火) 全学留学生オリエンテーション**

後期の全学オリエンテーションの工夫としては、より徹底を図るため、全部局に対してオリエンテーションのポイント集を作成して配布し、いかに全学オリエンテーションが必要であるかを説明し、欠席者には資料の配布を依頼し、情報伝達の徹底を図った。

**10月24日(月) 第2回 国際交流ボランティア・オリエンテーション**

85名が登録した。

**10月13日(木) 図書館施設に関するオリエンテーション(中央図書館)**

内容は前期を参照。

**10月20日(木) 健康管理オリエンテーション**

内容は前期を参照。

**10月27日(木) ホームページおよび文献検索(電子ジャーナルなど)に関するオリエンテーション(中央図書館)**

内容は前期を参照。

**11月8日および2006年3月15日 広島地域留学生団体育成支援協議会**

協議会の趣旨などは前期を参照。

**11月12日(土) 防災訓練(国際交流会館居住者対象)**

内容は前期を参照。

**11月19,20日(土・日) 江田島国際交流キャンプ『国際交流ボランティアセミナー』**

国立江田島青年の家と留学生センターの共催で、国際交流ボランティアセミナーを開催した。この目的は、「国際交流に興味・関心のある青年が、国際交流ボランティアとしての資質の向上を図る。また『国際交流キャンプ』を実施する上での企画および運営等について学習する」ことであり、その目的に沿った活動内容を開発・実施した。広島大学からは、9人の留学生を引率し、日本人青年は16人が参加した。初日前半は中矢が講師として講演を行った。翌日は、グループディスカッションを行い、中矢が講評を行った。

## 12月2日(金) 広島大学学長主催・広島大学国際交流懇親会

恒例の学長主催の懇親会を午後6時から8時までホテルグランヴィア広島・4階・悠久で行った。今年度は、外国人留学生ばかりでなく、研究者交流も含んで「広島大学国際交流懇親会」として実施した。学長の挨拶から、来賓紹介、来賓代表挨拶、留学生代表挨拶、外国人研究者代表挨拶、食事・歓談、アトラクションというプログラムで実施した。また、今年度は留学生の子供達のために、キッズ・コーナーも設定した。

## 12月5日(月) 国際交流ボランティア・オリエンテーション 12:30-13:10

ボランティア制度についてのオリエンテーションを行い、その後、15名が新規登録を行った。

## 1月15,16日(土・日) 国際交流キャンプ(江田島)

11月に開催した国際交流ボランティアセミナーに引き続き、国際交流キャンプを行った。引率者は、中矢で、広島大学留学生26名が参加した。全体で、100名の参加者があり、江田島探索、ディスカッションなどを行い、国際交流、日本文化理解を深めた。

## 2月20日(月) 国際交流会の開催

教育学部 K102 にて、国際交流会を開催した(14:00-16:00)。参加者は、留学生および外国人研究員・教員(22人)、日本人学生(18人)、教職員(6人：センターからは多和田、玉岡、石原、中矢)であった。活動内容は、①卒業生による講演(「留学経験を就職にいかにかすか」、②討論会(卒業後のネットワーク構築にむけて、就職活動について、短期留学後の広島大学への再留学について)であり、有意義な情報交換を行った。活動については、HPに掲載している。

## 3月10日(金) 留学生相談協議会

留学生センター長室(K304)にて、留学生相談協議会を行った(10:00~11:30)。出席者(敬称略)は、多和田(留学生センター長)、二宮(国際部長)、吉田(留学交流グループ課長)、山崎(留学交流グループ専門職員)、河本、宿、玉岡、中矢、山岡、森川、森元、加藤、横山(ハラスメント相談室)と非常に多く、以下のような協議内容について、活発な意見交換を行うことができた。以下、議事録要旨。

### 協議題:

1. 広島大学の「新」国際戦略と各部局における取り組みについて

- 二宮副学長より、「新」国際戦略の趣旨説明と留学生受け入れキャパシティについての説明が行われた。また、各部局から新しい取り組みを積極的に研究科長あるいは二宮副学長に直接提案していただきたい旨が伝えられた。
- 現在 800 人の留学生に対して、広大の将来的留学生受け入れ人数の想定が 1600 人であることについて、特に学部生の受け入れへ重点がシフトすることが想定されており、その際に大学が行うべき基盤整備が提案された(学部授業における英語の選択科目化など)。

## 2. 全学オリエンテーションについて

- 全学オリエンテーションへの関連教職員の積極的な参加がよびかけられた。
- 運転免許などの法律の注意の徹底を行うことが最重要事項として確認された。その徹底のために、全学オリエンテーションのみならず、各部局における各種オリエンテーションにおいても説明・注意喚起を行うことが話し合われた。
- 全学オリエンテーションへの留学生全員の参加の徹底を図るため、指導教官の名簿もあわせて作成し、留学生がオリエンテーションに欠席した場合の指導を依頼することが提案された。

## 3. チューターオリエンテーションについて

- チューターが規定の任務を果たすようにするための方策について話し合われた。今後、チューターが押印する際には、1ヶ月の活動内容報告として数行記載するように各部局に依頼することが提案された。

## 4. その他

- 「指導教官のための留学生指導に関する10の情報」の改訂版を発行することが提案された。

## 3月27日(月)「キャンパスの国際化」フォーラム

世界の人々にフレンドリーな大学づくりとして、多くの人々が立ち寄ってくれる大学、留学生や外国人研究者が満足してくれる大学とはどのような大学であるべきか、そしてその実現のためにどのような改善が実現可能であるかなどといった視点での報告と検討を行った。

## 3月30日(水) 2005年前期ボランティアチューター・オリエンテーション

留学生センターK308にて来年度のチューターオリエンテーションを行った(13:00~14:00)。

## 参考文献

- 中央教育審議会『新たな留学生政策の展開について(答申)ー留学生交流の拡大と



質の向上を目指して』平成15年12月16日.

- 岡益巳・玉岡賀津雄 (2001). 留学生センターからみた留学生専門教育教官との連携について. *留学生交流・指導研究*, 国立大学留学生指導研究協議会.
- 広島県警察本部広報課 (未記入). *県民のまもりー広島の警察*. 広島: 広島県警察本部広報課.
- 広島大学留学生センター (1999). *犯罪を防ぐために (To Prevent Crimes)* 東広島: 広島大学留学生センター
- 広島大学留学生センター (2000). *広島大学留学生キャンパスライフ・ガイド*. 東広島: 広島大学留学生センター
- 日本国際教育協会 (1999, 第2刷). *留学生のための健康のしおり*. 東京: 日本国際教育協会事業部学生生活課保健係.
- 二宮皓・玉岡賀津雄・中矢礼美 (2001). *平成13年度前期広島大学留学生の学習と生活に対する満足度調査*. 平成13年度第2回留学生センター運営委員会および第2回留学生センター教官・留学生専門教育教官等連絡会合同会議, 東広島地区(事務局5F1会議室)・広島地区(歯学部小会議室). 平成13年6月29日(金)15:00~17:00.
- 玉岡賀津雄 (1999a). 留学生指導部門: 「対処」型の支援活動から「予防」型の交流活動への転換. *留学生教育*, 3, 112-121.
- 玉岡賀津雄 (1999b). 国際交流ボランティア制度の導入による留学生の指導・助言活動の新しい展開. *1998年度広島大学留学生センター講演・討論会報告書「二十一世紀の留学生教育に向けて」* (pp. 29-37). 東広島: 広島大学留学生センター.
- 玉岡賀津雄 (2004). これからの留学生宿舎を考えるー広島地区の全留学生を対象とした調査データより. *留学交流*, 16(7), 2-5.
- 玉岡賀津雄・金田智子 (2000). 留学生指導部門: 各種オリエンテーションの充実と平成11年度指導. *留学生教育*, 4, 99-109.
- 玉岡賀津雄・堀田泰司・金田智子・石原淳也 (2001). *学生チューターハンドブック*. 東広島: 広島大学留学生センター.
- Tamaoka, K., Ninomiya, A., & Nakaya, A. (2003). What makes international students satisfied with a Japanese university?,
- 二宮皓・中矢礼美 (2003) 『留学生施策の戦略的方策に関する研究ー教員研修留学生プログラムに関する調査研究』(課題番号 13800004) 平成13-15年度科学研究費補助金(特別研究促進費(1)).
- 二宮皓・中矢礼美 (2004) 「留学生調査にみるわが国の大学院受け入れ態勢の現実

と課題—大学院留学生調査と教員調査の自由記述分析を通して—」広島大学留学生センター紀要.

2005 年前期・後期の 2 回の留学生支援調査より：  
広島大学留学生支援調査「満足度指標」の分析結果報告

広島大学留学生センター指導部  
門

教授 玉岡 賀津雄  
助教授 中矢 礼 美

### 1. 2005 年度前期の「満足度指標」の分析結果報告

2005 年前期の 6 月から 7 月にかけて行った留学生支援調査のうち、満足度指標について以下に報告する。

#### 1.1 調査対象および回答者の属性

広島大学留学生課より入手したリストに従って、2005 年 5 月 1 日の現在で広島大学に登録した留学生の 746 名全員に質問紙を配布した。この内、質問紙に回答したのは 211 名であった。したがって、有効回答率は 28.15 パーセントであった。これらの回答者の学籍は、大学院生が 126 名 (59.7%)、学部生が 26 名 (12.3%)、研究生が 42 名 (19.9%)、その他が 16 名 (7.6%) であった。1 名の留学生は記述がなかった。出身国・地域は、中国が 86 名 (40.8%)、韓国が 20 名 (9.5%)、台湾が 8 名 (3.8%)、マレーシアが 12 名 (5.7%)、インドネシアが 8 名 (3.8%)、その他が 77 名 (36.5%) であった。女性が 111 名 (52.6%) で、男性は、100 名 (47.4%) であった。また、私費の留学生が 106 名 (50.2%)、国費の留学生が 98 名 (46.4%) で、無記入が 7 名であった。また、理系が 69 名 (32.7%)、文系が 88 名 (41.7%)、その他が 37 名 (17.%)、無記入が 17 名であった。回答した留学生の平均年齢は、29 歳 11 カ月で、標準偏差は 5 歳 4 カ月であった。最も若い留学生は、18 歳で、最も年長は 44 歳であった。また、広島大学での在籍年数は、平均が 1 年 10 ヶ月で、標準偏差が 1 年 6 ヶ月であった。もっとも長いのは、6 年 8 ヶ月という回答者がいた。また、最も短いのは 1 ヶ月であった。

#### 1.2 質問紙の内容

質問紙には、留学生の属性として、性別、年齢、出身国・地域、学籍、所属、私費・公費、専門、在籍年数、使用言語などを記入する欄を設けた。質問は、留学生が不満を抱きそうな項目について 8 種類に絞って、「全くそう思わない」が -2 点、「そう思わない」が -1 点、「どちらとも言えない」が 0 点、「そう思う」が 1 点、「とてもそう思う」が 2 点で集計した。この配点であれば、マイナスが不満で、プラスが満足を示すので、分かりやすい。また、総合的に判断して、広島大学での学習と生活および大学の授業や研究に満足しているかどうかを同

様に判断してもらった。したがって、満足度指標の全体では10種類の質問項目である。

### 1.3 手続き

各留学生の名前を記入した封筒に、質問紙と学内便による返信用の封筒を入れて、留学生の管理部局から配布していただいた。また、各管理部局には、質問紙の回答箱を用意して、入れられるようにした。さらに、返信用の封筒の表に留学生センター長および指導部門教員の名前が印刷されていたので、学内便でも返送が可能であった。

### 1.4 論文および指導教官との会話での使用言語

今回の調査では、もう少し詳しく回答者の属性を聞いた。まず、使用言語については、論文で使用する言語は、日本語が110名で、52.1パーセント、英語が89名で42.2パーセントであった。その他の回答は11名で、回答しなかった者が1名であった。回答者からみると、これまでの調査では論文を英語で書く留学生が過半数を占めていたが、今回の調査では逆転して、回答者の過半数が日本語で論文を書いているという結果であった。また、指導教官との会話では、日本語を使用する留学生が138名で65.4パーセント、英語が60名で28.4パーセントとなった。その他および無回答が13名であった。論文の場合と同様に、日本語でコミュニケーションを取るという留学生が多数を占めた。過去2年間のデータは、英語の使用が多数を占めていたことを考えると、近年、日本語で論文を書き、コミュニケーションを取るという新しい傾向が見られた。これは、今回の回答者の過半数が文系の留学生が多かったことも影響しているであろうが、日本語が重視されなくてはならないことを示唆しており、興味深い結果であった。

### 1.5 満足度指標および総合的満足度指標の概要

10種類の質問について、-2点から2点までの連続変数であると仮定して、平均、標準偏差を算出した。得点は、表1に示したとおりである。すべての満足度指標において、マイナスはなかった。全体的にみて、留学生が広島大学での学習、研究、生活に満足していることを示している。八つの満足度指標のうち、プラスで1点以上になったのはないが、同時に特別低い項目もなく、過去の調査に比べて評価が平板化している。

### 1.6 研究科ごとの満足度指標比較

学部所属の留学生の回答者数が少ないので、大学院研究科ごとの満足度指標の平均を表2に示した。灰色のセルは、満足度が平均で+1.00以上を示しており、良い評価と考えてよい。白いセルが目立つほど、評価は低いことになる。

表 1 2005年前期の満足度指標の平均と標準偏差

#	満足度指標	有効回答数	満足度	標準偏差
1	指導教員の研究に対する指導	210	1.36	0.80
2	留学生の研究に関する知識	209	0.77	0.93
3	研究室の人達の助言	206	0.82	0.97
4	カリキュラムの適切性	206	0.68	0.90
5	授業の内容の理解	205	0.59	0.92
6	大学図書館の利用	210	1.17	0.84
7	日本での生活を楽しんでいる	211	1.01	0.94
8	留学生センターの情報提供	211	0.74	0.92
#	総合満足度指標	有効回答数	満足度	標準偏差
9	授業と研究に対する総合的満足	211	1.08	0.75
10	日常生活に対する総合的満足	211	0.92	0.83

注: 1 から10までの満足度指標は, 2 から-2 までの変数である.

Table 1 Means and Standard Deviations of Satisfactory Indexes in the 2005 first semester

#	Satisfactory indexes	n	Means	SD
1	Supervisors' assistance for research	210	1.36	0.80
2	Knowledge of research	209	0.77	0.93
3	Assistance by colleagues in a research room	206	0.82	0.97
4	Expectations for Curriculum	206	0.68	0.90
5	Understanding of class contents	205	0.59	0.92
6	Use of university libraries	210	1.17	0.84
7	Housing and living environment	211	1.01	0.94
8	Information by International Student Center	211	0.74	0.92
#	Overall satisfactory indexes	n	Means	SD
9	Classes and Research	211	1.08	0.75
10	Daily life	211	0.92	0.83

Note: Points of satisfactory Indexes vary from 2 to -2.

表2 2005年度前期の留学生の所属する大学院ごとの満足度指標の平均

研究科・センター	留学生回答者数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	平均
文学研究科	10	1.60	0.20	1.30	0.30	0.60	1.10	0.20	0.30	0.70	0.60	0.69
教育学研究科	24	1.42	0.50	0.71	0.63	0.75	1.29	0.87	0.50	0.96	0.96	0.86
社会科学研究科	13	1.54	1.00	0.69	0.54	0.92	0.92	0.69	0.15	0.85	0.54	0.78
先端物質科学研究科	10	1.30	1.00	0.70	0.30	-0.10	0.60	0.60	0.80	0.70	0.80	0.67
医歯薬学総合研究科	20	1.15	0.85	0.50	0.42	0.11	0.95	0.80	0.55	0.85	0.60	0.68
工学研究科	22	1.50	1.18	0.82	0.57	0.11	1.23	0.82	0.55	0.95	0.59	0.83
生物園科学研究科	13	1.69	1.15	1.15	0.69	0.46	0.92	0.85	0.77	0.85	0.69	0.92
国際協力研究科	24	0.96	0.58	0.25	0.13	0.63	0.68	0.56	0.36	0.60	0.52	0.53

注1: 1から10までは満足度指標で、2から-2までの変数である。灰色のセルは、1.00以上の満足度を示す。

注2: 満足度指標によって回答者数が異なるが、上記の研究科および留学生センターの集計は大学院生141名(全体の70.9%)の集計である。

注3: 留学生の回答者数が10名以下の研究科およびセンターは表に含んでいない。

Table 2 Satisfactory Indexes in Graduate Schools in the 2005 first semester

Graduate Schools	# of Students	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	Means
Letters	10	1.60	0.20	1.30	0.30	0.60	1.10	0.20	0.30	0.70	0.60	0.69
Education	24	1.42	0.50	0.71	0.63	0.75	1.29	0.87	0.50	0.96	0.96	0.86
Social Sciences	13	1.54	1.00	0.69	0.54	0.92	0.92	0.69	0.15	0.85	0.54	0.78
Advance Sciences of Matters	10	1.30	1.00	0.70	0.30	-0.10	0.60	0.60	0.80	0.70	0.80	0.67
Biomedical Sciences	20	1.15	0.85	0.50	0.42	0.11	0.95	0.80	0.55	0.85	0.60	0.68
Engineering	22	1.50	1.18	0.82	0.57	0.11	1.23	0.82	0.55	0.95	0.59	0.83
Biological Sciences	13	1.69	1.15	1.15	0.69	0.46	0.92	0.85	0.77	0.85	0.69	0.92
IDEC	24	0.96	0.58	0.25	0.13	0.63	0.68	0.56	0.36	0.60	0.52	0.53

Note 1: Points of satisfactory indexes vary from 2 to -2.

Note 2: A number of students differ in each graduate school. A total of students at graduate schools were 141 (70.9% of the total).

Note 3: Graduate studies and centers responded fewer than 10 international students were excluded from the table. Thus, no centers were included.

## 2. 2005 年度後期の「満足度指標」の分析結果報告

2005 年後期の 1 月から 2 月にかけて行った留学生支援調査のうち、満足度指標について以下に報告する。

### 2.1 調査対象および回答者の属性

2005 年前期と同様に広島大学留学生課より入手したリストに従って、2005 年 11 月 1 日の現在で広島大学に登録した全留学生に質問紙を配布した。この内、質問紙に回答したのは 235 名であった。これらの回答者の学籍は、大学院生が 135 名 (57.4%)、学部生が 33 名 (14.0%)、研究生が 49 名 (20.9%)、その他が 12 名 (5.1%) であった。6 名の留学生は記述がなかった。出身国・地域は、中国が 104 名 (44.3%)、韓国が 20 名 (8.5%)、台湾が 6 名 (2.6%)、マレーシアが 9 名 (3.8%)、インドネシアが 10 名 (4.3%)、その他が 36 名 (15.3%) であった。女性が 117 名 (49.8%) で、男性は、118 名 (50.2%) であった。また、私費の留学生が 117 名 (49.8%)、国費の留学生が 111 名 (47.2%) で、無記入が 7 名であった。また、理系が 91 名 (38.7%)、文系が 94 名 (40.0%)、その他が 17 名 (7.2%)、無記入が 33 名であった。回答した留学生の平均年齢は、28 歳 7 カ月で、標準偏差は 5 歳 6 カ月であった。最も若い留学生は、18 歳で、最も年長は 46 歳であった。また、広島大学での在籍年数は、平均 1 年 8 ヶ月で、標準偏差が 1 年 5 ヶ月であった。もっとも長いのは、6 年 8 ヶ月という回答者がいた。また、最も短いのは 2 ヶ月であった。

### 2.2 質問紙の内容

2005 年前期と同様に、質問紙には、留学生の属性として、性別、年齢、出身国・地域、学籍、所属、私費・公費、専門、在籍年数、使用言語などを記入する欄を設けた。質問は、留学生が不満を抱きそうな項目について 8 種類に絞って、「全くそう思わない」が -2 点、「そう思わない」が -1 点、「どちらとも言えない」が 0 点、「そう思う」が 1 点、「とてもそう思う」が 2 点で集計した。この配点であれば、マイナスが不満で、プラスが満足を示すので、分かりやすい。また、総合的に判断して、広島大学での学習と生活および大学の授業や研究に満足しているかどうかを同様に判断してもらった。したがって、満足度指標の全体では 10 種類の質問項目である。

### 2.3 手続き

やはり 2005 年前期と同様に、各留学生の名前を記入した封筒に、質問紙と学内便による返信用の封筒を入れて、留学生の管理部局から配布していただいた。また、各管理部局には、質問紙の回答箱を用意して、入れられるようにした。さらに、返信用の封筒の表に留学生センター長および指導部門教員の名前が印刷されていたので、学内便でも返送が可能であった。

## 2.4 論文および指導教官との会話での使用言語

使用言語については、論文で使用する言語は、日本語が108名で、46.0パーセント(割合には欠損値を含む)、英語が110名で46.8パーセントであった。その他の言語使用者は3名(1.3%)で、回答しなかった者が14名であった。回答者からみると、これまでの調査では論文を英語で書く留学生が過半数を占めていたが、今回の調査では、回答者の半数が日本語、半数が英語で論文を書いているという結果であった。また、指導教官との会話では、日本語を使用する留学生が143名で60.8パーセント、英語が78名で33.2パーセントとなった。その他の言語使用が2名(0.9%)および無回答が12名であった。日本語でコミュニケーションを取るという留学生が多数を占めた。近年、日本語で論文を書き、コミュニケーションを取るという新しい傾向が見られた。これは、今回の回答者に文系の留学生が多かったことも影響しているであろうが、日本語が重視されなくてはならないことを示唆しており、興味深い結果であった。

## 2.5 満足度指標および総合的満足度指標の概要

10種類の質問について、-2点から2点までの連続変数であると仮定して、平均、標準偏差を算出した。得点は、表1に示したとおりである。すべての満足度指標において、マイナスはなかった。全体的にみて、留学生が広島大学での学習、研究、生活に満足していることを示している。八つの満足度指標のうち、プラスで1点以上になったのはないが、同時に特別低い項目もなく、過去の調査に比べて評価が平板化している。

## 2.6 研究科ごとの満足度指標比較

学部所属の留学生の回答者数が少ないので、大学院研究科ごとの満足度指標の平均を表2に示した。灰色のセルは、満足度が平均で+1.00以上を示しており、良い評価と考えてよい。白いセルが目立つほど、評価は低いことになる。



表 1 2005年後期の満足度指標の平均と標準偏差

#	満足度指標	有効回答数	満足度	標準偏差
1	指導教員の研究に対する指導	230	1.34	0.81
2	留学生の研究に関する知識	229	0.72	0.96
3	研究室の人達の助言	227	0.85	0.89
4	カリキュラムの適切性	229	0.63	0.94
5	授業の内容の理解	231	0.59	0.97
6	大学図書館の利用	234	1.10	0.83
7	日本での生活を楽しんでいる	235	0.83	1.00
8	留学生センターの情報提供	234	0.74	0.89
#	総合満足度指標	有効回答数	満足度	標準偏差
9	授業と研究に対する総合的満足	234	1.01	0.75
10	日常生活に対する総合的満足	234	0.88	0.83

注: 1 から10までの満足度指標は, 2 から-2 までの変数である.

Table 1 Means and Standard Deviations of Satisfactory Indexes in the 2005 second semester

#	Satisfactory indexes	n	Means	SD
1	Supervisors' assistance for research	230	1.34	0.81
2	Knowledge of research	229	0.72	0.96
3	Assistance by colleagues in a research room	227	0.85	0.89
4	Expectations for Curriculum	229	0.63	0.94
5	Understanding of class contents	231	0.59	0.97
6	Use of university libraries	234	1.10	0.83
7	Housing and living environment	235	0.83	1.00
8	Information by International Student Center	234	0.74	0.89
#	Overall satisfactory indexes	n	Means	SD
9	Classes and Research	234	1.01	0.75
10	Daily life	234	0.88	0.83

Note: Points of satisfactory Indexes vary from 2 to -2.

表2 2005年度後期の留学生の所属する大学院ごとの満足度指標の平均

研究科・センター	留学生回答者数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	平均
文学研究科	14	1.57	0.86	1.00	0.71	0.93	1.14	0.57	0.57	1.14	0.64	0.91
教育学研究科	35	1.63	0.77	0.97	0.79	0.85	1.14	1.06	0.69	1.17	0.91	1.00
社会科学研究科	19	1.63	0.84	0.95	0.68	1.16	1.26	1.00	0.37	1.00	0.84	0.97
医薬薬学総合研究科	13	1.38	0.69	1.08	0.75	0.08	1.15	0.77	0.85	1.00	0.77	0.85
工学研究科	29	1.45	1.10	1.17	0.85	0.41	1.00	0.97	0.79	1.14	1.07	1.00
生物園科学研究科	14	1.43	1.07	1.07	0.79	0.57	0.86	1.14	0.93	1.21	1.14	1.02
国際協力研究科	17	1.53	0.75	0.53	0.06	0.71	0.82	1.12	0.65	0.94	0.88	0.80
留学生センター	39	1.10	0.63	0.49	0.62	0.56	1.13	0.68	0.98	0.90	0.93	0.80

注1: 1から10までは満足度指標で、2から-2までの変数である。灰色のセルは、1.00以上の満足度を示す。

注2: 満足度指標によって回答者数が異なるが、上記の研究科および留学生センターの集計は大学院生180名(全体の76.92%)の集計である。

注3: 留学生の回答者数が10名以下の研究科およびセンターは表に含んでいない。

Table 2 Satisfactory Indexes in Graduate Schools in the 2005 second semester

Graduate Schools	# of Students	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	Means
Letters	14	1.57	0.86	1.00	0.71	0.93	1.14	0.57	0.57	1.14	0.64	0.91
Education	35	1.63	0.77	0.97	0.79	0.85	1.14	1.06	0.69	1.17	0.91	1.00
Social Sciences	19	1.63	0.84	0.95	0.68	1.16	1.26	1.00	0.37	1.00	0.84	0.97
Biomedical Sciences	13	1.38	0.69	1.08	0.75	0.08	1.15	0.77	0.85	1.00	0.77	0.85
Engineering	29	1.45	1.10	1.17	0.85	0.41	1.00	0.97	0.79	1.14	1.07	1.00
Biosphere Sciences	14	1.43	1.07	1.07	0.79	0.57	0.86	1.14	0.93	1.21	1.14	1.02
IDEC	17	1.53	0.75	0.53	0.06	0.71	0.82	1.12	0.65	0.94	0.88	0.80
International Student Center	39	1.10	0.63	0.49	0.62	0.56	1.13	0.68	0.98	0.90	0.93	0.80

Note 1: Points of satisfactory indexes vary from 2 to -2.

Note 2: A number of students differ in each graduate school. A total of students at graduate schools were 141 (70.9% of the total).

Note 3: Graduate studies and centers responded fewer than 10 international students were excluded from the table. Thus, no centers were included.

2005年度後期留学生支援調査「自由記述」への対応に関する報告

自由記述欄には、65名の留学生から回答があった。そのうちなんらかの連絡先を書いていたものは、24名であった。以下は、留学生による自由記述意見、主要問題カテゴリー、予想される対応部局、指導部門による対応、留学生からの返答をまとめた。

	自由記述	問題	予想される対応	指導部門	留学生からの返答
1	①たくさんのレポートを書かなければいけません。でも、どうやって書けばいいかわかりません。そして日本語のレベルも限られているからうまく書けません。だから、ちょっと悩んでいます。 ②もう3か月立ちましたが、日本語の会話能力が上手になるような気がしません。あと9か月しかありませんが、どうやって上達できるか助言していただけますか。	日本語学習	留学生センター(?)	2月17日直接あつて助言。	努力を続けること、自分で決めることで合意。
2	I am satisfied with the living and learning environment. I enjoy my Japanese classes as well as my interactions with my laboratory mates in my research area. The Japanese language teachers have provided me various learning opportunities and I am indebted to them. My physics adviser has provided me generous assistance especially in my technical terms lessons as well as in my future research. If it would not be too much to ask, may I inform the center my interest to go on further studies such as taking a doctoral degree in physics education. However, the MEXT which is my sponsor in this training program would not be able to support me further. May I request the center for scholarship grants/information, should they be available for this purpose. It is also my desire to strengthen my acquisition of the Japanese language. I already ask permission from my physics adviser to allow me to enroll in Japanese classes for the next semester. I know it would be different for me but I believe that I should take it as another challenge.	研修プログラム後の奨学金・日本語学習	留学生センター(指導部門)・国際部	3月17日にメールにて、奨学金情報について案内	お礼のメール
3	日本語レベル低い、なかなか上達しない。また会話程度でまわっている。	日本語	留学生センター(指導部門)	2月16日にメールにて会話パートナーの案内と国際交流	2月17日返信。研究室訪問について2回メイ
4	現在、学習と生活に困難はあります。しかし、頑ると問題がないと思われる。	学習と生活	留学生センター(指導部門)	2月16日にメールにて会話パートナーの案内と国際交流	お礼のメール
5	Respectable teachers, 私は日本のせいかつになれました。And I'm also happy in my Intensive Japanese Language class with my friends from different countries of the world. But studying Japanese Language sometimes I didn't understand what the teachers teach. Some teachers speak Japanese fast. So I would like the teachers to speak Japanese slowly and clearly because I'm weak in listening Japanese, also speaking. I'll always be grateful of all teachers of 41st Intensive Japanese Language Course from Hiroshima University. I'll never forget the teachers who really kind and careful to all of us. I'll continue to study hard Japanese Language as much as I can when I go back to my country.	日本語授業	留学生センター(日本語)	3月17日にメールにて、日本語授業報について送信	お礼のメール

6	<p>I have found very convenient the international student center program and guidance in living in Japan. My suggestions to improve those aspects are: ✓ Regular upgrades in furniture at rooms in IH. The same apply for devices. ✓ Deep cleaning (wax, etc) in international house corridors and rooms. ✓ "Virtual Town" of the international house at the Hiroshima University webpage ✓ To encourage students to keep facilities clean and properly working through advertisement campaign (posters, booklet, guidance)</p>	国際交流会館 (家具、清潔さの問題)	国際交流会館	3月17日にメールにて今後の対応について送信	3月18日に返信。いつでもセンターの手助けをするとのこと。
7	<p>The surrounding area close to the university and the dormitory is not exciting at all. There is nothing to do, going to movies, karaoke is very expensive. Life here is very boring - didn't expect that. I should have gone to another university where the campus and dormitory is located in the city. The dormitory kitchen is always so dirty! my food is always disappearing from the refrigerator. It seems that the ones who are pinching the food are Japanese students as there is not many foreign students on one floor, hence everyone knows everyone, and we all detest people who are stealing food!</p>	環境(田舎)への不満	学生宿舎	携帯電話に何度か電話をするが、つながらず。番号不明。	
8	<p>レポートや小論文など日本語を訂正してくれる人が身近にいないのがとても困ります。チュータとかもちょうど忙しい時期なので、頼みにくい状況で、留学生課に問い合わせしてみたらそんなことをしていないそうで、今後は少し不安な気持ちでいっぱいです。</p>	日本語	留学生センター	2月16日にメールにて会話パートナーの案内と国際交流会の案内	返答なし
9	<p>生活は基本的にプライバシーの問題です。 学習の問題は75%満足しています。 でももっと改善したい所はないということはないと思います。 留学生センターと留学生の関係はまだまだうすいと思います。</p>	プライベートな問題 留学生センターとの関係	留学生センター	3月20日にメールにて具体的な提案をたずねる。	返答なし
10	<p>I am quite satisfied in general but I still feel something that need to be improved in terms of courses and lectures. The study environment may need to be more active and the relationship between students and sensei also requires to be enhanced further.</p>	カリキュラム、教師との関係	?	3月20日メールにて、もう少し具体的な内容を教えて欲しい	返答なし
11	<p>私は昨年に研究生として国際協力研究科に入り、一年間研究生やるつもりでしたが、「幸いなこと」に9月の大学院試験に合格しました。予定より半年早く大学院生になれたことを心から喜び、一生懸命勉強に励むつもりでした。しかし、一年間の間に研究生の半年分の費用(入学金・授業料)及び大学院入学に伴う入学金・学費を支払わなければならないことで、現在、経済的にとても苦しい状況におかれています。今の状況を変えるためにアルバイトを予定より増して頑張りながら奨学金を申請したり、学生寮(国際交流会館やサンスクエア)への入居を希望したりしましたが、なかなか決まることができないのが現況です。 このままでは学業のことでも大変心配になり、悩みに悩んでいます。こういうことになったのは、言うまでもなくすべて自己責任であり、自分で解決しなければならないことははっきりと分っていますが、もし、ご助言やご情報を提供していただければ、大変ありがたいです。 よろしく願っています。</p>	奨学金	本人	電話	お礼の返答

12	<p>I am an S.P.I.S.E Masters Program Student. The S.P.I.S.E. program was introduced in 2005. The program is conducted in English totally. Therefore my problems are:  (1) The inability to find/comprehend Interlibrary Loans  (2) The usage of the library computers to optimum benefit for my studies</p> <p>These problems I think, are due to my lack of Japanese. However, I think the Library Tour should be done more often to assist people (like me!) who missed it because of lectures/classes.  I need a library tour, especially hoe to borrow/deal with an Interloan (Library Interloan service) book. I also need help in ordering a specific article/book/journal from organisations like the ERIC database but don't know how to do that too!</p> <p>I would need these assistances in English, please. Thank you☺  p/s:→Please see another page.  Continuation on the questionnaire  The Issue of Host Family  Despite my program is conducted in ALL English, but I am still in Japan, learning in Japan.  All HUSA/International students seem to be talking about 'host family', 'host mother', 'host father', or ' Japanese host family' of their own. However, we in S.P.I.S.E program are not sure what to answer if people We feel alienated by this difference.  We are not sure whether it is not necessary for us to be living/knowing But we feel alienated. We would like to learn about the Japanese cultur Please explain to me about this. Our program coordinators are: Prof. Seiji Thank you again!</p>	図書館の使い方・ホストファミリー	教育学研究科	3月20日に二宮先生と深沢先生にお願い。留学生にもその旨をメールで伝える。	お礼の電話と訪問
13	<p>1. I have been flooded with information via momiji mail. Unfortunately, everything has been written in KANJI. Could the English version be available?</p> <p>2. We need more newest-textbooks/reference books at the libraries (including at the Department of English library). Old, out-of-date books should be recycled/thrown away, they are not relevant to the current development of the subject matter anymore.</p>	日本語(もみじを英語に)、図書館(英語の本が古い)	国際部、図書館	3月17日にメール。国際部に依頼したこと、図書館に直接必要な本をお願いすればよいことを伝えた。	3月18日に返信。指導教官が本を買ってくれて貸してくれていること、英語の環境整備が難しいことは理解していること
14	<p>留学生センターに行事や、活動があれば(例:有賞作文募集や、旅行や、見学など)、メールで教えていただきたいです。</p>	情報	留学生センター(指導部門)	2月16日にメールにて国際交流会の案内ともみじの	お礼のメール

15	<p>First of all I have to thank you and Hiroshima University International Student Center, for your great help to foreign students in both life and study. As the results of previous survey shows, you do the best. Just there is a question for me and some other students.</p> <p>Why do not they use "Minnano Nihongo Vol. 1" Book, as the textbook for japanese intensive course, when it is a really useful book and also many universities use that, too. It's full of daily and useful japanese words. of course in Level 2 of japanese classes, vol. 2 of this book is used but unfortunately some grammars and a lot of words from book 1 is missed.</p> <p>At last, I have to thank you again for your great job. I would like to write this comment in japanese but unfortunately after 9 month studying japanes, I can not.</p>	日本語 授業	留學 生セン ター (日本 語)	メールに て説明	返答な し
16	<p>I am satisfied in the housing condition at International house student. But have to move in this March. I think should stay long time. Because its difficult to find appropriate house like International house student.</p>	宿舎	国際 部?	電話つな がらず	
17	<p>社会科学研究科の玄関がカードリーダーがあれば学生達は深夜まで勉強できると思います。警備員にも迷惑かからないと思います。国際協力研究科のようなものです。</p>		社会 科学 研究 科	電話つな がらず	
18	<p>生活、韓国の料理を作るとして買いものに行ったが、得れる食材料が少なかった。</p>	韓国料 理の材 料	留學 生セン ター	3月20日 電話で 韓国料 理屋と材 料の店 について 知らせ	電話に て感謝
19	<p>As I read in the website, most of graduate lectures would be delivered in English, for most of International students. I suggest that university could promote and enforce to do so as in the field only a few of lecturing could follow within English, particularly in Fac. of Integrat Arts and Sciences – This scheme would support signifiantly the understanding of lecture and class activity.</p>	英語で の講義	総合 科学 部	3月18 日にメ イルに て、内 容確認 と部局 に指摘 を伝え ることを 約束。	お礼の メール
20	<p>It's better if Hiroshima University provides the student accommodation, especially the international house throughout their studying at Hiroshima University. Thank you!</p>	宿舎	国際 部	3月17日 にメ イル。全 員に宿 舎を 用意す るのは 予算的 に無理 である が、適 切な方 法で全 学生の よりよ い環境 作りを 続けて いくこ とを 伝える。	返答な し

21	<p>留学生センター所属の学生ではないですが、毎週金曜日やときどき週末に行う見学やキャンプなどに参加しています。もし時間の面で問題がなかったら、参加してもいいでしょうか。センターの留学生達と同じ文部省国費留学生です。学部では私のような留学生は一人しかいないので、センターやHUSAみたいなイベントが全然ありません。みんなが羨ましいです。</p>	センター活動への参加希望	留学生センター（日本語？）	3月17日にメール。行事によっては参加できるものがあり、その時に参加してもらうこと、センター会議で伝えることを約束。	お礼のメール
22	<p>1. 池の上学生宿舎6号館の周囲に野天がありません。友達は野天に襲われました。私も恐いです。正常的な生活ができません。どうしましょうか。 2. 私は中国の大学を卒業して、来日しました。中学生、高校生と大学生の時、ずっと英語を勉強していました。大学を卒業前に、中国の大学英検六級（最高のレベル）が合格しました。今年4月から英会話と英語読書についての授業を受けて続けたいんですが、私のレベルはどなたの先生の授業に達するかとわかりません。文学部の英語の授業が文学と言語学について、ちょっと難しいです。教育学部に英語授業の内容がわかりません。 3. 池の上学生宿舎6号館3階のキッチンに電気の一つが去年年末除からずっと切れました。そのままに、とても不便です。困ります。留学生センターの先生たち、よろしく願いいたします。</p>	池の上学生宿舎・英語学習	学生宿舎	山崎さんへ報告した後、手紙。	返答なし
23	<p>Dear, I have done the questionnaire 3 times. Could you tell me, how important of this data? Every new students came to study in every year. And they may be have unsatisfactory index more than old students. So, the means of old students and new student may be different. Sincerely</p>	質問紙調査への疑問	留学生センター	3月18日に質問紙調査の意義についてメールで説明。	3月19日に返信。感謝の内容のみ。
24	<p>2004年4月博士課程に入学した。私は広島大学の授業と研究に満足するのですが、経済的な生活はたいへんです。博士一年目で一カ月の3万円をもらって、博士二年目で後期で半年の一カ月3万円しかもらわなかった。生活はとても苦しかったです。後に残る二年の博士課程にどうなるかととても心配です。これからどうぞよろしく願いいたします。</p>	経済	国際部？	連絡がつかず	

## 教育交流部門 広島大学短期交換留学（HUSA）プログラム

堀田泰司・恒松直美

（広島大学留学生センター 教育交流部門）

### 活動の経緯と目的

広島大学短期交換留学プログラム（以下、HUSAプログラム）は、短期留学推進制度の一環として、特に日米文化教育交流会議（カルコン）においてジュニア・イヤー・アブロード・プログラムによる留学生の受け入れを積極的に推進するよう勧告されていることもあり、アメリカ合衆国を主たる対象国としながら北米、オセアニア、アジア、ヨーロッパ諸国の大学（短期学生交流協定校）に在籍する学部学生で、本学に一学期もしくは一学年度の短期間留学を希望する者を対象とするものである。日本語の習得に加え、特別に「英語による授業科目」を開設することでもって、本学で教育を受ける機会を提供し、学生交流を活性化させ、本学の一層の国際化に資することを目的とするものである。そのために特に本学では、様々な学部から特色ある専門的科目や日本・アジア理解を推進する専門的科目を提供し、将来、日本やアジア及び世界の事情に通じた人材の育成に貢献するとともに、本学の学生の国際感覚を身につけた大学生の養成を目指している。

また 2001 年より、こうした交換留学事業がより効率的且つ効果的におこなわれるよう UMAP 事業が提唱する UCTS (UMAP Credit Transfer Scheme) を活用し、単位相互を積極的に行っている。HUSA プログラムは、国際交流推進会議の下部組織である短期留学交流プログラム部会によって統括されており、部会は、合計 15 名の各学部代表委員並びにその他委員により構成されている。但し、実務的な管理運営にあたっては、留学生センターの教育交流部門並びに国際部留学交流グループがその主たる業務を担っている。

### I. 受け入れプログラムの概要

- ・ 受け入れ期間：一学期または、一学年
- ・ 募集人員： 50 名
- ・ 募集方法：学生交流協定を締結している（締結する）各国の大学に対し募集要項を配布し、公募する
- ・ 応募資格：
  - (1) 本学との間に学生交流協定を締結している大学の学生または学生交流について双方が合意した書簡がある大学の学生
  - (2) 原則として自国の大学の正規課程 3 年次の学部学生（協定校によっては、



院生も含む)

(3) 学業成績が優秀で日本留学に熱意を持つ者

(4) 非英語圏から応募する学生にあっては英語又は日本語による授業を履修できるのに必要な語学力を持つ者

- ・ 選考方法：短期留学交流プログラム部会において、協定大学の推薦と UMAP 学修計画書を参考にしながら、書類をもって選考する。
- ・ 学生の身分と受け入れ方法：学生は、留学生センターで統括し、学部生は「特別聴講学生」、院生は「特別研究学生」(広島大学学生交流規定)として受け入れる。
- ・ 授業料等の不徴収：交流協定に基づく、特別聴講学生として受け入れるので、授業料等を徴収しない。(なお授業料については、協定の中で「相互不徴収」について合意する必要がある)
- ・ カリキュラム：授業科目は、3つの形態から構成されている。「特設科目」は、HUSA プログラムの学生のために特別に開設された主に英語による授業であり、「常設科目」は、既に学部で開設されていたものに、HUSA プログラムの学生が登録した場合、英語を交えて授業にするという条件のついた科目であり、日本人学生と共に履修するものである。第3に「日本語関係科目」は主に教育学部が開設し、留学生センターが実施している日本語・日本事情の科目である。さらに、日本語レベルが上級の学生は、各学部で日本人学生用に開設されている授業を受講することができる。また、授業科目はそれぞれの学部が開設しているものであり、その統括は各学部でおこなわれている。以下が、2005-2006 年度に開設された授業科目一覧表である。

### 2005-2006 年度授業科目一覧

[2005 年度秋学期]

#### 1. 特設科目【Special Course】

授業科目名	単位数	備考	受講人数
Cultural Aspect of Science Education in Japan	2 単位	教育学部	2
Family Life in Japan	2 単位	教育学部	11
Seminar in Japanese Culture and Education	2 単位	教育学部	7
Seminar in Multicultural Art Education	2 単位	教育学部	5
Japanese Economy	2 単位	経済学部	17
Japanese Society and Gender Issues	2 単位	総合科学部	17

Plant Biology	2 単位	理学部	7
Current and future states of the researches in the Fisheries Science	2 単位	生物生産学部	2

## 2. 常設科目【Regular Course】

授業科目名	単位数	備考	受講人数
異文化コミュニケーション論入門	2 単位	総合科学部	4
英語圏文学講義	2 単位	文学部	6
適応生理学	2 単位	総合科学部	3
言語哲学演習	2 単位	総合科学部	8
口腔の科学:食生活と全身の健康	2 単位	歯学部	0
中期英語演習	2 単位	文学部	0
日本の文化の教育	2 単位	教育学部	25
日本の法制度と社会	2 単位	法学部	10
物理科学実験 B	2 単位	理学部	0
歴史風景解析学	2 単位	文学部	0
アメリカ現代文学演習	2 単位	文学部	8
人体構造 2	2 単位	医学部	0
現代語研究	2 単位	文学部	0

[2006 年度春学期]

## 1. 特設科目【Special Course】

授業科目名	単位数	備考
Cross-Cultural Studies on Education	2 単位	教育学部
Frontiers of Material Science	2 単位	総合科学部
Internship for HUSA program	2 単位	教育学部
Japanese Language and Literature, and Teaching Methods for Natives	2 単位	教育学部
Japanese Linguistics from Contrastive Perspective	2 単位	教育学部
Mathematical Structures	2 単位	教育学部
Modern Chemistry	2 単位	理学部
Psychophysics Toolbox and MATLAB programming	2 単位	教育学部

Recent Developments in Biological Sciences	2 単位	理学部
Japanese Society and Culture	2 単位	総合科学部

## 2. 常設科目【Regular Course】

授業科目名	単位数	備考
CMOS 論理回路設計	2 単位	工学部
異文化コミュニケーション論演習 A	2 単位	総合科学部
英語ディベート演習	2 単位	総合科学部
開発と国際教育	2 単位	教育学部
景観生態学	2 単位	総合科学部
言語学入門	2 単位	総合科学部
語用論	2 単位	総合科学部
広島・長崎講座:平和と人権	2 単位	総合科学部
細胞生物学	2 単位	医学部
地球科学野外巡検A	2 単位	理学部
日本における障害者の歴史と特殊教育の傾向と課題	2 単位	教育学部
日本の政治と対外関係	2 単位	法学部
日本音楽演習	2 単位	教育学部
物理科学実験 A	2 単位	理学部
ヨーロッパ外観・観念分析	2 単位	文学部
英語文法	2 単位	文学部
中世哲学	2 単位	文学部
人体構造 5	2 単位	医学部
人体構造 3	2 単位	医学部
医学国際協力研究	2 単位	医学部

## 日本語・日本事情関係科目

授業科目名	単位数	開講学期	備考
日本語初級 IA	2 単位	秋学期	留学生センター
日本語初級 IB	2 単位	秋学期	留学生センター
日本語初級 IC	2 単位	秋学期	留学生センター
日本語初級 ID	2 単位	秋学期	留学生センター

日本語初級 IIA	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本語初級 IIB	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本語初級 IIC	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本語中級 IA	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本語中級 IB	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本語中級 IC	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本語中級 IIA	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本語中級 IIB	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本語中級 IIC	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本語聴解特別演習 A	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本語表現特別演習 A	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本語古文特別演習 A	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本語上級 B (リスニング)	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本語上級 B (映画)	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本語上級 B (古典)	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本語上級 B (語彙)	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本語上級 B (表現)	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本語上級 B (分析)	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本社会・文化A	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本社会と文化 B	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本の思想・哲学A	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本思想と哲学 B	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本の地域・文化 A	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本の地域・文化 B	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本の映像文化史 A	2 単位	秋・春学期	留学生センター

・受け入れ体制の整備：(1) 日本における様々な体験学習の場を提供する。(2) 学生宿舎（日本人・留学生混在型）を用意するとともに、ホームステイ受け入れ家庭との交流も促進する。(3) 日本人学生チューターを事前に配置し、受け入れ開始と同時に留学生を支援する。(4) 日本語学習の補助として日本人学生の会話パートナーを紹介する。(5) 入国時身元保証人としては、各指導教官に依頼せず、機関保障（広島大学）とする。(6) 本学が提供する教育の質を保証する活動の一環とし、成績証明書に UMAP の単位互換方式で

ある UCTS を導入し、単位互換を促進する。

## II. 2005-2006 年度 HUSA プログラム留学生受け入れ状況

2005-2006 年度は、アメリカ、オーストラリア、イギリス、オランダ、ドイツ、インドネシア、タイ、フィリピン、韓国、中国の 42 大学と 1 コンソーシアム（2002 年度 22 大学、2003 年度 27 大学、2004 年度 21 大学、2005 年度 28 大学）から計 51 名（2002 年度 39 名、2003 年度 47 名、2004 年度 43 名、2005 年度 51 名）の留学生を受け入れた。期間は、殆どの学生が 1 年間の滞在を希望しており、男女別で見ると 2005 年度秋学期は男子学生 25 名、女子学生 25 名、2006 年度春学期は男子学生 21 名、女子学生 26 名であった。

## III. 2005-2006 年度 HUSA プログラム受け入れ活動

**申請と選考：**2005 年度募集要項は、2005 年 2 月に各協定大学へ配布され、3 月末に各大学から参加希望者が推薦された。推薦された学生について、4 月に、本学の選考委員会によって HUSA 参加者が正式決定された。今年度も受け入れ留学生の申請において、UMAP 学習計画書も申請書類の中に組み込み、選考や奨学金の推薦の参考資料として利用した。

2004 年度の申請から、受け入れ留学生のオンライン登録を受け付け始めたが、2005 年度も同じオンライン登録を使用した。オンライン登録により、学生が直接インターネットから情報を入力し、受け入れ留学生のデータベースが作成できるようになった。昨年は初めての試みで、試行錯誤もあり、問題点などもあったが、本年は昨年の経験も踏まえ、より効率的な形でオンライン登録ができた。HUSA 受け入れ学生が増加していくことが予測される中、今後も学生のデータベース作成、管理にオンライン登録を活用していきたい。

**渡日前の情報の提供：**渡日前のオリエンテーションと日本での生活の準備を兼ねて、広島大学及び留学生活に関する情報を網羅した英語版の「短期交換留学生用手続き (Information for New Students)」を改訂して各学生に送付した。また、ホームページによって HUSA プログラム、広島大学、日本での生活について詳細な情報を提供するとともに、「よくある質問」を掲載し留学生がよく疑問に思う事項について説明した。さらに、2003 年度 HUSA プログラムより開講しているインターンシップ・コースについての情報も掲載した。それらに加え、学生の個人的な質問等には、電子メールやファックスを活用し、直接個々のケースに対応した。

**チューターオリエンテーション：**日本人学生チューターに対し、今年度も事前に 2 回の説明会を行った。第 1 回目は、チューターとしての全般的な支援活動の内容について説明

し、第2回目は、留学生が来日する直前に、渡日後1週間の事務手続き並びに寮へ入居するまでの具体的な支援活動についてオリエンテーションを行った。

**見学・体験学習：**2005年度春学期には、4月に花見会を開催し、5月には高田郡甲田町で開催された泥んこバレーボール大会へHUSAチームが参加し、また、広島市で行われた駅伝カーニバルにもHUSAチームが出場した。また、HUSA留学生のための書道セミナーを開催し、書道を実際に体験する機会を持った。2005年度秋学期には、毎年のように10月から11月にかけて、酒祭り見学、秋大祭見学、文化交流のための学校訪問、文化体験学習の機会を提供してきた。

**授業科目の開設状況：**HUSAプログラム用の開設科目は、毎年、各学部で審議され、今年度も82科目（一般53科目、日本語教育：春学期25科目、秋学期29科目）が短期交換留学生のために開講された。2000年度から留学生センターが実施している日本語教育科目は、HUSAプログラム用の特設科目となった。2003年度からは初級・中級を特設科目とし、上級の科目は研修生や正規留学生そして研究生と合同で受講することになり、幅広い充実した日本語カリキュラムが組まれている。

2003年度より春学期にインターンシップ・コースを開設し、2003年度は企業・公官庁に2名、2004年度及び2005年度には各6名を派遣した。2004年度は、インターンシップ終了後、東広島商工会議所関係者、インターンシップ受け入れ企業を含めた東広島経済同友会役員、広島大学国際担当学長補佐、HUSA担当教員、国際部留学生交流グループ職員を交えて、インターンシップ受講留学生のプレゼンテーションの場を設け、インターンシップ体験談を披露した。2005年度は、インターンシップ派遣前に、事前研修を行い、さらに外部講師を招いて「自己啓発セミナー」も行い、インターンシップに備えた。インターンシップ終了後は、東広島商工会議所関係者、及び受け入れ企業の関係者と懇親会をもった。地域との連携の中で大学の国際化と留学生の日本での就業体験をさらに充実したものにしていきたい。

**文化交流支援活動：**例年通り二つのホームステイプログラムを実施した。口和町教育委員会と協力して、11月に第8回目のホームステイプログラムを実現した。参加した留学生は各家庭訪問に加え、全体での交流や、消防訓練実地体験、祝詞、着物着付け、餅つきなど日本文化体験を楽しんだ。また、忠海高校とも協力し、第4回目のホームステイプログラムを行った。家庭でのホームステイに加え、高校での全体交流、各グループに分かれて、

茶道、書道、調理、メディアのクラスなどを体験した。その他にも、2006年度春学期には、昨年同様、友禅染講習を行い、伝統的日本文化を学生が体験する機会を設ける予定である。さらに、当留学生センターの指導部門による国際交流ボランティア制度を利用し、日本人学生の会話パートナーを短期留学生に紹介し、交流を促進した。また、日本人チューターを国際交流ボランティア、広島大学電子掲示板を通して募集し、国際交流に関心の高い学生をチューターとして採用した。

**地域貢献：**2003年度より、東広島商工会議所から、国際理解のための留学生の母国についての講和を依頼されている。2003年度はフランス・韓国、2004年度はアメリカ・カナダ・ギリシャ、2005年度にはドイツからの HUSA 留学生が商工会議所を訪問し、母国の文化・習慣や日本との相違について話した。また、計 30 名の HUSA 留学生が、地域の小学校・中学校・高校で「教室で学ぶ国際理解」に参加し、国際交流した。2005年度2月には三原市の老人福祉施設「サンライズ港町」を訪れ、多くの老人の方々と交流することができた。2004年9月及び2005年1月には、国立江田島青年の家と広島大学留学生センターとの共催で、外国人と日本人が交流を通して異文化コミュニケーション能力を身につけることを目的とした「国際交流ボランティアセミナー」が江田島青年の家で開催され、HUSA 留学生も参加した。さらに、2005年11月には、留学生と留学生の家族、広島大学職員の参加するバス見学旅行「りんご狩りツアー」に HUSA 留学生も参加した。

**HUSA 広報活動：**HUSA ホームページにはプログラムの概要、申請方法、スタッフ紹介、HUSA に関するニュース、開講コース案内、シラバス、奨学金・寮・大学施設についての情報、国際交流イベント案内、HUSA パンフレット、広島大学及び地域についての情報など、すべてが網羅されている。サイトを常に更新し、HUSA プログラムについての最新情報を提供している。

**HUSA プログラム評価：**プログラム改善の参考とするため、毎学期、HUSA プログラム全体評価、各コース評価、学生チューター評価を行っている。学生にアンケート用紙を配布し、回収し、結果をまとめ、プログラム改善に役立てている。

#### IV. 2005-2006 年度 HUSA 留学生派遣計画

本学からの留学生派遣事業に関しては、本年度も1月初旬に応募者の選考試験を行い、1月中には実施委員会で選考、2～5月に受け入れ大学へ推薦という日程で選考・推薦を行っている。以下は、17年度募集に関する情報と過去のデータをまとめたものである。

## 募集要項

### 1. 制度の趣旨：

短期交換留学プログラムは、学部生・大学院生が短期学生交流協定等に基づいて母国の大学に在籍しつつ、派遣先の大学において学習、異文化体験、語学の実地習得等を目的として、概ね1学年以内の1学期又は、複数学期教育を受けて単位を取得し、研究指導を受ける制度で、平成8度後期から、アメリカ、カナダ、オーストラリア、ニュージーランド、マレーシア、タイ、フィリピン、インドネシア、中国、韓国、ロシア、ポーランド、オーストリア、ドイツ、オランダ、スウェーデン、イギリスの大学から主として学部学生を短期交換留学生として招致し、本学の学部学生を各国各協定大学に派遣するという相互交流事業である。この交流事業は派遣先大学において授業料不徴収及び単位互換認定の制度を内容としており平成17年度の派遣学生を以下の通り募集した。選考に当たっては、広島大学短期交換留学プログラム及び独立行政法人日本学生支援機構（JASSO）短期留学推進制度による海外派遣学生を短期留学交流プログラム部会委員が面接し選考した。

### 2. 特徴：

- ・ 授業料不徴収
- ・ 単位互換制度
- ・ 現地コーディネーターのアシスタント
- ・ 短期交換留学生との留学前の交流と留学後の現地での交流

### 3. 出願書類

- ①派遣申請書（所定の様式）
- ②留学計画書（所定の様式）
- ③TOEFL成績表

英語能力を応募条件とする大学に留学予定の学生；530点（CBT197点）以上が望ましい。ただし、USAC語学文化研修応募希望者については、500点（CBT173）が必須条件。

注． 英語圏以外で英語能力を応募条件としない大学に留学予定の学生は、別途行う学内語学試験の成績による。

- ④学業成績証明書（大学院生については、学部の学業成績証明書も含む。）

### 4. 出願書類提出先及び締切り

各学部等派遣留学担当係                      平成17年11月28日（月）

### 5. 面接（口述）試験

平成18年1月6日（金）

### 6. 留学中の学生の身分

この制度を利用して留学する場合は、「留学願」の届出を行い、必ず学長の許可を受けなければなりません。この場合、外国の大学での学修は本学の教育課程の延長線上にあるものとして考えられ、次のとおり修学上の取り扱いがなされます。



- ・ 外国の大学で学修した成果は本学の履修単位として換算することが可能であり、従って換算された単位は当然卒業に必要な単位数に算入されます。
- ・ 「留学」の期間は、在学期間に算入され、卒業に必要な在学期間の一部となります。
- ・ 「留学」の期間は、本学に所定の授業料を支払わなければなりません。

## V. HUSA 留学生派遣事業の実績

2005年度の短期交換留学生派遣に関しては、アメリカ、オーストラリア、中国、韓国、イギリス、フランス、ガーナの17校へ26名を派遣した。また、2006年度派遣留学生に関しては、すでにアメリカ、メキシコ、オーストラリア、中国、韓国、イギリス、ドイツ、スペイン、ポーランド、スウェーデン、オーストリアの18校へ26名の推薦が決定している。

## VI. HUSA 留学生派遣事業の活動状況

- ・ **広報活動：例年通り** HUSA 留学生も協力し、留学フェアを7月1日に開催した。各協定大学からの留学生がブースを設け、また日本人学生の派遣のための説明会も開催した。日本人学生90名が留学フェアを訪れた。さらに、8月の広島大学オープン・キャンパスでもブースを設け、訪問した高校生に HUSA プログラムについて説明した。早い時期に HUSA について知ってもらうため、4月に入学する学生に渡す書類一式の一部でも HUSA に関する情報を渡した。HUSA ホームページにはプログラムの概要すべてが網羅されているが、サイトを常に更新し、HUSA についての最新情報を提供している。
- ・ **留学前の情報提供と留学計画の促進：**例年、派遣が決定した本学の学生に対し2度に渡るオリエンテーションを実施しており、留学に関する一般的な情報と共に、協定校から来ている留学生との交流の場を提供している。その学生間の交流は留学後も続き、協定校においても継続的な交流活動が行われている。また、留学前に指導教員並びに学部との単位互換に関する話し合いの場を設ける意味で、UMAP 学習計画書を4月の第1回目のオリエンテーションで配布し、留学2～3ヶ月前までに、提出するよう要求している。
- ・ **夏季語学研修プログラムの促進：**2005年度も協定校のサマープログラムの募集を行ったがUSACや韓国の語学研修プログラムに数名が参加した。今後も特に交流数の不均衡が生じている協定校で、サマープログラムを開講しているものに関しては、その機会を積極的に利用するよう、さらに募集にも積極的に組み込む計画である。また、3月には、ハワイ大学を訪問し、国際部が企画している夏季語学研修プログラムの相互交流企画を提案し、具体的にハワイ大学の学生が本学のサマープログラムに参加するための条件等の情報を得た。

- ・ **I N U特別協力科目の開発**：派遣留学を促進するために本学では、情報の公開と説明会等の開催を積極的に行ってきたが、依然として、派遣留学生の応募者数も実際の派遣学生数も成長が見られず、違った視点からの養成活動が必要であると考え、18年度開講を目指し、I N U (International Network of Universities) という海外のコンソーシアムを活用し、協定大学の協力を得て、海外の先生と共同で教える科目を開発した。まず、始めに本学のより多くの一般学生が履修できるよう、教養科目としての開講の手続きを進め、同時に年度末には、I N U協定校へ担当教員を募集し、I N U特別協力講義AとI N U特別協力講義Bの2科目の開講に成功した。これらの科目の特徴は、海外からの英語による授業はW e b C T上で、ビデオ講義として学生がいつでも聴講できるよう環境を整え、その講義内容について、本学の教員が日本語で講義とディスカッションをするという形式で授業を展開する点である。留学を希望する本学の学生にとっては、留学先の英語による一般授業をオンライン上で自分のペースで何時間でも何回でも繰り返し聴講することができ、尚且つ、日本人教員によって、日本語で内容を確認できる機会もある授業形式は、留学のための予備教育としては、極めて有効な教授法であると考え。18年度が初年度であるので、今後様々な調整が必要であるとは思いますが、今後この新しい教育スキームをより充実させ、実力のある学生の派遣留学事業を開発する計画である。

## VII. その他の活動

### 大学の国際化に関する活動：

2006年3月には、『「キャンパスの国際化」フォーラム：フレンドリーな大学とは・・・』(Internationalizing Campus Forum: What it means to be a “friendly” university)を留学生センター主催で開催した。オーストラリア・モナシュ大学留学生オフィス及びアメリカ・カリフォルニア大学バークレイ校留学生オフィスより留学生支援の担当者を招聘し、広島大学職員及び海外留学経験のある学生等を招いてキャンパスの国際化についてのプレゼンテーション及び討論を行った。さらに、国際部職員、HUSAプログラム担当教員、及び海外から招聘した留学生オフィス担当者を交え、大学の国際戦略について討議した。フォーラム及び討議において、HUSAプログラム担当教員は通訳を務める傍ら、キャンパスの国際化及び国際戦略についての見解を述べた。

## [2005 年]

- 3月 文部科学省の海外先進教育研究実践支援プログラムの支援を受け、センター教員がベルギー、オランダ、フランス、スペインを6週間訪問し、海外高等教育機関における単位認定制度を調査した
- 4月 カナダ・セントメアリー大学人文科学部長、並びに国際部長来校
- 7月 アメリカ・ハワイ大学国際部短期交換プログラムコーディネーター来校
- アジア・太平洋大学交流機構 (University Mobility in Asia and Pacific, 以下 UMAP) 国際会議『UMAP Train the Trainers Workshop on Student Exchange & UMAP Credit Transfer Scheme』タイ高等教育省主催、タイ、バンコク、2005年7月28-29日に講師として、センター教員が参加した
- 8月 オーストラリア・ラトロブ大学学長補佐、並びに INU プロジェクト担当者来校
- 9月 アメリカ・創価大学国際部交換留学プログラム担当者来校
- 10月 イギリス・レスター大学国際部交換留学プログラム担当者来校
- アジア・太平洋大学交流機構 (University Mobility in Asia and Pacific, 以下 UMAP) 国際会議『Cross-Border Services of Higher Education and UMAP Tomorrow』UMAP 日本国内委員会主催、東京、2005年10月13日-14日にモデレータとしてセンター教員が参加した。
- 12月 「UMAPの現状と課題：UCTSとLearning Outcomesによる教育の質保証のあり方について」について『新しい留学生教育プログラムの開発と評価に関する研究会』東京外国語大学主催 (12月10日) にてセンター教員が講師を勤める

## [2006 年]

- 1月 オーストラリア・ラトロブ大学学長補佐来校
- 2月 スウェーデン・マルメ大学 (INU) 演奏会について演出担当者来校
- 3月 ハワイ大学と広島大学のサマースクール・プログラムについての話し合いのため、ハワイ大学・アウトリーチ・カレッジ学部長ピーター・タナカ教授を訪問
- 「短期留学プログラムとUMAPの今後の展開」について『平成17年度第2回横浜国立大学留学生センター研究会』、横浜国立大学留学生センター主催、(3月29日) にてセンター教員が講師を勤める

平成 17 年度 (2005 年度)  
日韓共同理工系学部留学生事業協議会  
および日韓共同理工系学部留学生事業推進フェア

石原淳也

例年、日韓共同理工系学部留学生を受け入れている主要大学が持ち回りで「日韓共同理工系学部留学生事業協議会」を主催し、「日韓共同理工系学部留学生事業推進フェア」をコーディネートしているが、本年度は広島大学がその任に当たることとなった。

<日韓共同理工系学部留学生事業協議会>

平成 17 年 7 月 22 日 (金)、広島大学の学士会館 2F レセプションホールにおいて韓国慶熙大学校から、国際教育院金重燮院長、同酒匂康弘講師、文部科学省から小野寺多映子高等教育局学生支援課国費留学生係長、日韓共同理工系学部留学生受け入れ大学から約 60 名、さらに広島大学からは二宮皓副学長、多和田眞一郎留学生センター長・広島大学日韓共同理工系学部事業実施部会長をはじめ、約 20 名の参加者を迎え「日韓共同理工系学部留学生事業協議会」を開催した。

本事業に関する日韓協議を中心とした小野寺係長の講演の後、本学留学生センター石原助教授による、本学日韓共同理工系学部事業 5 年間の取り組みについての報告に引き続き、慶熙大学校金院長から本年度 6 期生に対する韓国内で実施されている予備教育の現状について、また、大掛りなアンケートから見えてくる本事業の課題等についての講演があった。

その後、これらの講演・報告を踏まえ、いくつかのテーマについて活発な意見交換が行われた。本年度は初めての卒業生を出した直後ということもあり、出席者の関心は専ら卒業後の進路、特に兵役と大学院への進学との兼合いをどうするべきかという点に集まった。

平成17年度 日韓共同理工系学部留学生事業協議会 プログラム

主催：広島大学 留学生センター

日時：平成17年7月22日（金） 13：20 ～ 17：10

会場：広島大学学生会館 2F レセプションホール

- 13：00～13：20 受付
- 13：20～13：30 開会の挨拶 広島大学副学長 二宮皓
- 13：30～14：05 日韓共同理工系学部留学生第7期生の選抜について 他  
—日韓協議を踏まえて— （講演20分 質疑15分）  
文部科学省学生支援課国費留学生係長 小野寺多映子
- 14：05～14：35 広島大学日韓共同理工系学部留学生事業の5年間  
（報告15分 質疑10分） 広島大学留学生センター助教授 石原淳也
- 14：35～14：50 休憩（15分）
- 14：50～15：40 6期生予備教育の現状およびプロジェクトについての報告  
（講演40分 質疑10分）  
韓国慶熙大学校国際教育院 院長 金重燮  
韓国慶熙大学校国際教育院 講師 酒勾康弘
- 15：40～16：45 テーマ別討論  
日韓共同理工系学部留学生事業のあり方について  
予備教育について  
個人データの取り扱いについて  
中途退学者について  
推進フェアについて  
次年度の当番大学について
- 16：45～17：00 総合討論
- 17：00～17：10 閉会の辞 広島大学留学生センター長 多和田眞一郎
- 17：30～18：50 懇親会

#### <日韓共同理工系学部留学生事業推進フェア>

「日韓共同理工系学部留学生事業推進フェア」は平成 16 年度まで韓国ソウル慶熙大学校において韓国教育振興院主催で行われる日韓共同理工系学部留学生事業筆記試験合格者およびその保護者に対する説明会のあとで、慶熙大学校の全面的なバックアップのもと、日本側日韓共同理工系学部留学生事業受け入れ大学が自主的に行う合同説明会であったのだが、本年度より韓国側の説明会が韓国教育振興院内で実施されることになり前年度までのノウハウを使用することは困難となった。

実施時期、会場の確保についての検討、また、韓国の関係諸機関との協議・交渉を重ねた結果、平成 17 年 9 月 21 日（水）13：00 より、国際教育振興院内において「日韓共同理工系学部留学生事業推進フェア」を開催することが決まった。通訳の手配、6 期生への連絡については慶熙大学校に御協力頂いた。

推進フェアへの参加は 32 大学、うち資料のみの参加が 4 大学であった。当初、推進フェアの開始を 13：00 と予定していたが、韓国国際教育振興院の御協力によりブースの設置がすでに完了していたため、12 時過ぎには説明会の終わった合格者・父兄が各大学のブースを訪れて、実質的に推進フェアが始まるという状態となり、予定されていた時間よりも一時間 16：00 には推進フェアは終了した。

## 留学生と客員研究員の 家族のための日本語特別クラス

中川正弘

留学生センターでは、広島大学に在籍する外国人留学生、外国人客員研究員などの家族を対象とした中級日本語クラスを2004年10月より開講しています。

これは多数の留学生の要望に応じて行うもので、広島大学の外国人留学生、外国人客員研究員の生活条件の重要な部分を占める家族の生活を向上させることで、彼らの研究活動を側面から支援します。

日本語のレベルを中級Ⅰと中級Ⅱに分け、どちらも1コマ60分の授業を週二日行います。

受講料：5000円

場所：東広島キャンパス内大学会館集会室

講師：留学生センターの推薦する謝金講師

問い合わせ／受け付け：広島大学国際部留学交流グループ

2005年度前期	中級Ⅰ	7名
	中級Ⅱ	8名
2005年度後期	中級Ⅰ	5名
	中級Ⅱ	11名

## 留学生センター教員研究・その他の活動業績

### 1. 研究論文・著書

王雪, 浮田三郎 「日本と中国における酒に関する諺の対照考察(2)」, 西日本言語学会機関誌『ニダバ』, 第35号, 2006年, pp. 125-134.

浮田三郎 「現代ギリシア語と日本語における『金持ちと貧乏』に関する諺の対照比較研究」, 日本ギリシア語ギリシア文学会機関誌, 『プロピレア』第17号, 2005年, pp.23-32.

浮田三郎, 浅野千恵 (2006) 「コンピュータを利用した日本語教育のためのことわざ教材の開発」, 広島大学留学生センター編『留学生教育』, 第10号, 2006年, pp.1-7.

Tamaoka, K. “Corpus Studies on Japanese kanji”, *Lündenscheid*, Germany, RAM-Verlag and Tokyo, Japan, Hituzi Syobo, 2005.

玉岡賀津雄 「『決定木』分析によるコーパス研究の可能性: 副詞と共起する接続助詞『から』『ので』『のに』の文中・文末表現を例に」, 『自然言語処理』第13巻(2), 2006年, pp. 169-179.

Tamaoka, K. “The effect of morphemic homophony on the processing of Japanese two-kanji compound words” *Reading and Writing*, vol.18, 2005, pp. 281-302.

玉岡賀津雄 「中国語を母語とする日本語学習者による 正順・かき混ぜ語順の能動文と可能文の理解」, 『日本語文法』, 第5巻(2), 2005年, pp. 92-109.

玉岡賀津雄 「命名課題において漢字1字の書字と音韻の単位は一致するか」, 『認知科学』, 第12巻(2), 2005年, pp. 47-73.

Tamaoka, K. & Altmann, G. “Mathematical modeling for Japanese kanji strokes in relation to frequency, asymmetry and readings”, *Glottometrics*, vol.10, 2005, pp. 16-29.

Tamaoka, K. & Koizumi, M. “Issues on the scrambling effects in the processing of Japanese sentences: Reply to Miyamoto and Nakamura (2005) regarding the experimental study by Koizumi and Tamaoka (2004)” 『言語研究』, vol.129, 2006,



pp. 181-226.

- Tamaoka, K., Matsuoka, C., Sakai, H. & Makioka, S. “Predicting attachment of the light verb -suru to Japanese two-kanji compound words using four aspects”, *Glottometrics*, vol.10, 2005, pp.73-81.
- Tamaoka, K., Sakai, H., Kawahara, J., Miyaoka, Y., Lim, H. & Koizumi, M. “Priority information used for the processing of Japanese sentences: Thematic roles, case particles or grammatical functions?”, *Journal of Psycholinguistic Research*, vol.34(3), 2005, pp.273-324.
- Meerman, A. & Tamaoka, K. “Can Japanese ESL students recognize the correct order of adjectives in noun phrases?”, *International Journal of Curriculum Development and Practice*, vol.8(1), 2006, pp.1-11.
- Meerman, A. & Tamaoka, K. “Japanese ESL Student Correctness Decisions for Noun Phases Exhibiting Short and Long Distance Adjective Disordering”, 『広島修道大学論集』—人文編, vol.64(2), 2005, pp.55-69.
- Miyaoka, Y., & Tamaoka, K. “A Corpus investigation of the right-hand head rule applied to Japanese affixes”, *Glottometrics*, vol.10, 2005, pp.45-54.
- 田村泰男 「現代日本語の複合形容詞・派生形容詞・畳語形容詞について」, 『広島大学留学生センター紀要』, 第16号, 2006年, pp.13-20.
- 多和田眞一郎, 趙志剛 「『琉球譯』オ段音の漢字表記について」, 『日本語教育を起点とする総合人間科学の創出』(広島大学大学院教育学研究科日本語教育学講座推進研究平成16年度報告書), 2005年, pp.209-223.
- 多和田眞一郎 「日本の国語文法教育—中学校国語教科書を中心として—」, 韓国文法教育学会『文法教育』, 第2号, 2005年, pp.113-131 (原文は韓国語)
- 恒松直美 「短期交換留学プログラム留学生のための英語で行う授業の日本人学生への開講ニーズ調査」, 『広島大学留学生センター紀要』, 第16号, 2006年, pp.31-53.
- 恒松直美 「大学国際戦略: 国際カリキュラム構築と日本人学生の参加」, 広島大学留学生センター編『留学生教育』, 第10号, 2006年, pp.9-28.

中川正弘 「日本語における主観の表明 -ゼロ人称の文法-」, 広島大学留学生センター編『留学生教育』, 第10号, 2006年, pp.29-42.

中矢礼美 「インドネシアにおける自律的学校経営に関する研究」, 『広島大学国際教育協力論集』, 第8号(2), 2005年, pp.51-62.

中矢礼美 「ガルーダを掲げる学校」, 二宮皓(編著)『世界の学校』, 学事出版, 2006年, pp.156-165.

中矢礼美(共著)『異文化を背景とする子どもたちへの教育支援に関する研究報告 -多様性を受け入れる活力ある社会をめざして-』, 広島大学, 2005年.

深見兼孝 「日本語と朝鮮語の逆接の『接続語』について」, 『広島大学留学生センター紀要』, 第16号, 2006年, pp.1-12.

尹光鳳, 深見兼孝, 林炫情 『ベーシック韓国語』, 広島大学生協, 2006年.

堀田泰司 「ヨーロッパにおける高等教育改革(Bologna Process)-ECTS(European Credit Transfer Scheme)と Learning Outcome の果たす役割」, 『広島大学留学生センター紀要』第16号, 2006年, pp.21-29.

## 2. 学会発表

浮田三郎 講演「現代ギリシア語と日本語における『金持ちと貧乏』に関する諺の対照比較研究」, 日本ギリシア語文学会, 広島大学, 2005年10月29日.

Tamaoka, K. "Effects of mora, bi-mora and word frequencies on Japanese phonological processing", The 3rd Seoul International Conference on Phonology, New Millennium Hall, Yonsei University, Seoul, Korea, June 24-25, 2005.

玉岡賀津雄, 栗林裕, 酒井弘 "Psycholinguistic investigation of subject incorporation in the processing of Turkish active sentences with transitive verbs", 日本言語学会第130回大会, 国際基督教大学, 2005年6月11日-12日.

玉岡賀津雄, 林炫情, 宮岡弥生 「日本語と韓国語の文処理におけるスクランブル効果」, 韓国日本文化学会 2005年度春季国際学術大会, 大田大学校, 韓国, 2005年4月30日.

- 玉岡賀津雄, 田中潤一 「名詞句と能動文におけるコロケーション頻度の影響」, 電子情報通信学会『思考と言語』研究会, 九州大学, 2005年7月9日.
- 玉岡賀津雄, 栗林裕, 酒井弘 「トルコ語の主語編入に関する言語心理学的考察」, 第266回広島言語文化談話会, 広島大学, 2005年4月23日.
- Tamaoka, K., Miyaoka, Y., Wu, Y. & Kondo, Y. “How well can learners of Japanese write kanji embedded in high and low frequency words? - A comparison between Chinese- and Turkish-speaking Japanese learners”, 第270回広島言語文化談話会, 広島大学, 2005年10月29日.
- Chen, H- C., Yamauchi T., Tamaoka, K. & Vaid, J.I. “Word recognition depends on script: A comparison of Japanese kanji and hiragana”, The 17<sup>th</sup> Annual Convention of American Psychological Society, Los Angeles CA, May \_\_ 2005.
- 村岡諭, 玉岡賀津雄, 宮岡弥生 「文理解における語順と有生性の関係」, 日本心理学会第69回大会, 慶応義塾大学, 2005年9月10日-12日.
- Tanaka, J.-I., Tamaoka, K. & Sakai, H. “Syntactic priming effects in the processing of a head-final language”, The 19th Annual CUNY Conference on Human Sentence Processing, New York, U.S.A., March 23-25 2006.
- 田中潤一, 玉岡賀津雄, 酒井弘 「日本語の文処理における動詞の影響—統語的・語彙的プライミングを用いて」, 日本言語学会第131回大会, 広島大学, 2005年11月19日-20日.
- 多和田眞一郎 「外国資料による日本語研究—沖縄語ハングル資料を中心として—, 大田人文学Forum, 忠南大学, 韓国, 2005年9月22日.
- 恒松直美 「広島大学短期交換留学プログラム(HUSA)留学生のための英語で行う授業の日本人学生への開講ニーズ調査: 国際カリキュラム構築に向けて」, 日本総合学会 2005年度秋季大会, 2005年10月8日.
- 深見兼孝 「日本語の『テモラウ』は朝鮮語でどのように翻訳されるか」, 日本総合学会 2005年度春季大会, 神戸大学, 2005年5月28日.
- 堀田泰司 「ヨーロッパにおける高等教育改革 (Bologna Process) : ECTS (European Credit Transfer Scheme) と Learning Outcome の果たす役割」, 第41回日本比較教育学会, 日本大学, 2005年6月25日.

### 3. 学術研究補助金

玉岡賀津雄 研究代表者（平成 16 年度～平成 17 年度）基盤研究 C(2)「中国語・韓国語およびトルコ語を母語とする日本語学習者の日本語語順の習得」

玉岡賀津雄 研究分担者（平成 14 年度～平成 16 年度）基盤研究 C(2)「動詞形態の認知処理過程を手がかりとした言語機構の構造の解明」（研究代表者－広島大学・大学院教育学研究科・助教授・酒井弘）

玉岡賀津雄 研究分担者（平成 16 年度～平成 18 年度）基盤研究 C(2)「動詞の項構造，統語構造と基本語順に関する認知脳科学的研究」（研究代表者－東北大学・大学院文学研究科・言語科学専攻・助教授・小泉政利）

玉岡賀津雄 研究分担者（平成 16 年度～平成 21 年度）独立行政法人科学技術振興機構（JST）・社会技術研究システム推進室・社会技術研究事業，研究領域「脳科学と教育 タイプⅡ」研究課題「言語の発達・脳の成長・言語教育に関する統合的研究」（研究代表者－首都大学東京・人文学部・助教授・萩原裕子）

中矢礼美 研究代表者「Competency Based Curriculum に関する国際比較研究」（平成 17 年 4 月～平成 20 年 3 月まで）科学研究費補助金(若手 B)

中矢礼美 研究代表者「アジアにおける「能力開発型」カリキュラムに関する国際比較研究」（平成 16 年 12 月～平成 18 年 3 月）平成 16 年度後期研究支援金」

中矢礼美 研究代表者「外国人児童・生徒への地域での教育支援方策のあり方等に関する研究」平成 16 年広島大学地域貢献研究（平成 17 年 10 月まで）

中矢礼美 研究分担者 「グローバル時代に対応した国際理解教育のカリキュラム開発に関する理論的実証的研究」（2003 年 4 月～2006 年 3 月）学会科研費研究

### 4. その他の活動

#### A. 地域貢献、社会貢献

浮田三郎 財団法人石田教育振興財団評議員

多和田眞一郎 「キワニス留学生奨学金日本語作文」審査委員会委員長

堀田泰司 UMAP 日本国内委員会専門委員

## B. 学会活動

石原淳也 日本語教育学会研究集会委員会中国地区委員

石原淳也 韓国日本文化學會海外理事

浮田三郎 日本ギリシア語ギリシア文学会副会長

浮田三郎 言語文化教育学会理事

浮田三郎 西日本言語学会運営委員

玉岡賀津雄 日本認知科学会運営委員

玉岡賀津雄 日本言語学会役員

玉岡賀津雄 日本音韻論学会理事

玉岡賀津雄 日本読書学会理事

Katsuo Tamaoka International Reading Association, Japanese Representative of the  
International Development in Asia Committee

多和田眞一郎 日本総合学会会長

多和田眞一郎 韓国日本文化学会海外理事

中矢礼美 『国際教育協力論集』編集委員

深見兼孝 西日本言語学会運営委員

深見兼孝 日本総合学会理事

## C. 講演・ワークショップ等

石原淳也 講演「広島大学日韓共同理工系学部留学生事業の5年間」, 日韓共同理工系学部  
留学生事業協議会, 広島大学, 2005年7月22日.

浮田三郎 公開講座「現代ギリシアの言語と文化(2)」, 広島大学, 2005年5月30日—  
6月20日.

Tamaoka, K. Conference “Psychological investigation into the mechanisms of  
Japanese phonological processing”, Utrecht Institute of Linguistics OTS,  
Faculty of Arts, Utrecht University, the Netherlands. , March 1, 2006.

玉岡賀津雄 講演「出会いと統計と研究の多様な可能性」, 関西英語教育学(KELES) 大学  
英語教育学会(JACET)関西支部および外国語教育メディア学会(LET)関西支部共催  
第10回「卒論・修論」研究発表セミナー, 同志社大学, 2006年2月19日.

玉岡賀津雄 講演「脳は漢字をどのように認知処理しているかー最新の言語心理学研究成  
果からー」, 長岡技術科学大学, 2006年1月10日.

玉岡賀津雄 講演「日本語の研究と教育に関するデータの統計解析」, 第2回日本文化コ  
ミュニケーション国際学術セミナー(建国大学校, 師範大学日本語教育学科・大学  
院日語日文学科・教育大学院日本語教育専攻主催), 建国大学校・師範大学, 韓国,  
2005年11月5日.

多和田眞一郎 講演「螺旋状の言語変化ー沖縄語を例としてー」, 日本総合学術学会春季  
大会, 神戸大学, 2005年5月28日.

堀田泰司 講演「Japanese Cultural Briefing」, 『UNITAR Training Workshop on World  
Heritage Management: A Value-Based Approach』研修コース, 国連訓練調査研究  
所(UNITAR)アジア太平洋地域広島事務所, 2005年4月17日.

堀田泰司 講演「Japanese Cultural Briefing」, 『UNITAR Training Workshop on Foreign  
Direct Investment for Development Financing』研修コース, 国連訓練調査研究  
所(UNITAR)アジア太平洋地域広島事務所, 2005年5月15日

堀田泰司 講演「UCTS Workshop in Bangkok: UMAP Activity in Hiroshima University」  
(7月28日), 「Opportunities & Threats to Participate in UMAP」(28日), 「ヨ  
ーロッパにおける高等教育改革(Bologna process) ECTSとLearning Outcome  
の果たす役割」(29日), アジア・太平洋大学交流機構(University Mobility in  
Asia and Pacific, 以下UMAP)国際会議『UMAP Train the Trainers Workshop on  
Student Exchange & UMAP Credit Transfer Scheme』, タイ高等教育省主催, バン  
コク, タイ, 2005年7月28日-29日

堀田泰司 講演「Japanese Cultural Briefing」, 『UNITAR Hiroshima Fellowship for  
Afghanistan』研修コース, 国連訓練調査研究所(UNITAR)アジア太平洋地域広島  
事務所, 2005年9月25日.

堀田泰司 モデレーター兼講演「Issues and Challenges in the Provision of Higher  
Education Cross-Border Services」, アジア・太平洋大学交流機構(University

Mobility in Asia and Pacific, 以下 UMAP) 国際会議『Cross-Border Services of Higher Education and UMAP Tomorrow』, UMAP 日本国内委員会主催, 東京, 2005 年 10 月 13 日-14 日.

堀田泰司 講演「Japanese Cultural Briefing」, 『UNITAR Training Workshop on Food Security』研修コース, 国連訓練調査研究所 (UNITAR) アジア太平洋地域広島事務所, 2005 年 10 月 23 日.

堀田泰司 講演「UMAP の現状と課題 : UCTS と Learning Outcomes による教育の質保証のあり方について」, 新しい留学生教育プログラムの開発と評価に関する研究会, 東京外国語大学, 2005 年 12 月 10 日.

堀田泰司 講演「Japanese Cultural Briefing」, 『UNITAR Hiroshima Fellowship : Strengthening Capacities of the Iraqi Civil Service』研修コース, 国連訓練調査研究所 (UNITAR) アジア太平洋地域広島事務所, 2005 年 12 月 11 日.

堀田泰司 講演「短期留学プログラムと UMAP の今後の展開」, 平成 17 年度第 2 回横浜国立大学留学生センター研究会, 横浜国立大学留学生センター, 2005 年 3 月 29 日.

#### D. その他教育活動